

日 本 グ ッ ド  
デ ザ イン 展  
24 年 の 歩 み

日 本 グ ッ ド デ ザ イン 展 協 議 会





●目次

あいさつ／日本グッドデザイン展協議会 会長 長村貞一	3
日本グッドデザイン展24年の歩み	4
写真でつづる日本グッドデザイン展	8
資料	12
I 日本グッドデザイン展協議会規約	
II 日本グッドデザイン展協議会会員・役員名簿	
III 日本グッドデザイン展開催記録	
Gマークの30年（座談会）	28
Gマーク30年の歩み（年表）	34



## ご 挨拶

日本グッドデザイン展は、去る昭和61年12月9日から同11日まで東京都港区麻布台のラフォーレミュージアム飯倉500における第24回日本グッドデザイン展—Gマーク30年記念展の開催をもちまして、昭和38年度以降24年間、16都市、延べ91会場、284万余人の入場者という記録を残して成功裡にその幕を閉じました。

これもひとえに出品者各位はもちろんのこと、本展の開催に多大のご支援をいただいた関係官公庁、団体、会場をご提供下さった日本百貨店協会加盟の各開催地の百貨店、広報活動に側面からご協力をいただいた各報道機関ならびに本展の広報活動に永年にわたり多額の財政的ご支援をいただいた通商産業省、日本自転車振興会、各都道府県市、協賛諸団体その他関係各位の絶大なご助力によるものと心より御礼を申し上げます。

ふりかえりますと、本展開催の主旨は昭和38年当時も現在も、わが国産業の振興と国民生活の質的向上という基本的な課題については一貫したものがありませんでしたが、経済情勢の面からみますと本展開催24年間の前半は輸出振興を主軸とするわが国経済の高度成長の時期であり、後半は国際化と国民生活水準の向上を含めた安定成長の時期にあたりました。

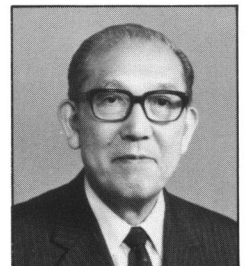
とくに、昭和20年代から30年代にかけて海外から寄せられた意匠模倣問題の発生は、工業所有権の尊重とともに独創的なデザイン開発の推進ならびに一般国民のデザインに関する理解の促進が急務となり、その施策の一環として昭和32年にグッドデザイン商品選定制度が、また昭和38年に日本輸出デザイン展が発足して事業展開を開始しました。とくにデザイン展の開催がデザインが優れた商品を一般消費者ならびに各地の業界関係者に紹介しつづけることにより及ぼした社会的波及効果には図り知れないものがあつたものと思われまふ。

幸い昭和61年度に入り全国十数の地方都市から各開催地主催者独自の自主企画によるグッドデザイン商品展示の要望が急増したため、その新たな対応は選定事業の実施機関である日本産業デザイン振興会にお願いして、昭和47年に発足したデザイン振興協議会、現在の日本グッドデザイン展協議会による中央組織の企画、運営はその役割を充分に果たし得たものとの観点から、本展協議会を総会の議決を経て昭和62年7月31日をもって解散することに決定いたしました。

ここに永年にわたる関係各位のご支援、ご協力に対し重ねて心からの御礼を申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

昭和62年7月31日

日本グッドデザイン展協議会  
会長 長村 貞一



昭和37年12月11日、東京商工会議所ビル内の日本商工会議所談話室において、現在の日本グッドデザイン展の旧称であった日本輸出デザイン展の第1回展示会を開催するための最初の理事会が開催された。

その席上、当時の状況を適確に説明している司忠（つかさただし）東京商工会議所副会頭による「'63日本輸出デザイン展経過報告」が記録資料として残されていたので、本展発足の経緯をよくあらわす資料としてご紹介させていただく。

『最近、商品の優劣を決定するのは輸出、内需を問わず、その商品の価格、品質のみでなく、機能性を含めたデザインの良否であるという認識が普遍化してきたことはすでにご承知のとおりであります。

そこで、通商産業省、東京都ならびにデザイン振興協議会において、輸出品のデザイン水準の向上に資することにより輸出振興を図り、また優秀デザインに対する一般の認識を深めさせ、あわせて国産品の普及向上に寄与せんとすることを目的として、'63日本輸出デザイン展の開催を計画し、準備事務局を設け、展示会場の交渉のほか種々の準備を進めてまいりました。

幸い、株式会社高島屋のご好意により、本展開催のために昭和38年10月1日から同6日までの6日間、東京日本橋・高島屋8階催場1,023㎡（約310坪）をお借りすることができるようになりましたので、早速、通商産業省通商局輸出振興部長土屋正雄氏をはじめ、主催6団体の専務理事ほか関係各位13氏に本デザイン展の準備委員をお願いして、去る昭和37年11月30日13時30分より日本商工会議所役員室において準備委員諸氏をはじめ、本展事務局幹事の方々29名出席のもとに「'63日本輸出デザイン展準備委員会」を開催しました。

同会議は、開会ののち出席者各位の推薦により、私、東京商工会議所副会頭司が座長を務めさせていただきました。

まず最初に、通商産業省大坂保男デザイン課長に経過報告をお願いしたあと、本展に関する役員、趣意書、開催要綱、出品物選定要領、出品料算定基準、経費概要、運営規程ならびに事務局規程等について協議いただきました。本日お手元にある資料は同準備委員会において協議いたしましたことをまとめたものであります。

そこで、事務局では理事ならびに監事のご委嘱をお願いし、本日ここに本展の第1回理事会を開催することになりました。以上、簡単ではありますが経過報告といたします。』

以上の、司忠東京商工会議所副会頭の経過報告にひきつづき、同時に足立正（あだちただし）日本商工会議所会頭から次のような挨拶が行われた。

『本日、1963年日本輸出デザイン展第1回理事会を開催いたしましたところ、年末ご多用中にもかかわらずお差し繰り多数ご出席をいただきまして厚く御礼を申し上げます。

わが国商品のデザイン振興施策に関しましては、昨年9月に通商産業省のデザイン奨励審議会が、すでに6項目にわたる答申を出されているのでありますが、その中で、今後デザインを振興するための一方策として、総合展示会を毎年1回開催してはどうかとの答申がでております。

しかしながら、これらの答申内容を実現いたすためには、なにか中心となる組織をつくり推進する必要がありますので、本年4月関係者が集まり種々協議いたしました結果、とりあえず「デザイン振興協議会」を設置いたすことに意見の一致をみしました。

このデザイン振興協議会の構成団体には、現在、日本貿易振興会、日本繊維意匠センター、日本陶磁器意匠センター、日本輸出雑貨センター（現在の生活用品振興セン

ター)、日本機械デザインセンターおよび日本商工会議所がなっておりますが、本年4月以降、この協議会に理事会、幹事会をおいてすでに10数回の諸会議を行い、デザイン振興に関する具体的諸方策につき種々の角度から検討を重ねてまいりました。

このたび、デザイン振興諸施策の一環として本デザイン展開催につき成案を得ましたので、去る11月30日に準備委員会を開催いたし、関係方面のご賛同を得て、本日にここに第1回理事会を開催し、正式ご決定を願う運びといたしました。

本デザイン展の開催については、当初から通商産業省、東京都におかれましても、積極的なご指導とご支援をいただいている関係上、通商産業省、東京都にデザイン振興協議会を構成する6団体を加えた8団体を主催者として、昭和38年10月上旬を期してはなばなしく展示会を開催することに相成った次第であります。

幸い、ご出席関係各位におかれましては、本デザイン展開催の趣旨を深くご理解下され、役員としてご就任願うことになりましたことは、誠に感謝にたえないところであります。

何卒、本デザイン展の開催ならびに運営につき、よろしくご支援とご協力を賜わりますよう切に希望するものであります。

第1回理事会の開催に際し、一言、主催者を代表してお願いを申し上げてご挨拶といたします。』

以上、2つの資料にあるとおり、本デザイン展発足の目的は昭和37年という当時の時代を十分に反映するかのようには輸出振興、国産品の普及向上、輸出品のデザイン水準向上に主眼をおいたものであったことが良く理解できる。

また、本デザイン展発足の直接の動機は昭和36年9月に開催された通商産業省デザイン奨励審議会の答申によるものであることが明らかにされており、そのための任意の組織として「デザイン振興協議会」が設置され、昭和37年4月以降11月末まで10数回にわたる準備会議のあと、同年12月の第1回理事会の開催に至っていることも良く説明されている。

昭和37～38年という本展発足の時期は、昭和30年代からのデザイン活動がとくに活発になった第2次大戦後から今日までの約30年間の丁度中期にあたり、30年代の前半にはすでに昭和32年にGマーク制度が発足、同33年には通商産業省にデザイン課が設置され、また昭和30年から同34年にかけてデザイン振興協議会の構成団体である繊維、陶磁器、生活用品、機械の各意匠センターならびに日本貿易振興会が次々と設立、発足しており、また、日本商工会議所も昭和32年からGマーク業務に協力を開始していた。いわゆるデザイン関係組織の整備がとくに進められた時期であった。

昭和38年10月、その第1回展示会が東京日本橋の高島屋で開催された。以後、本展は、第3回までその年々のテーマを設定し、テーマに沿った展示構成と出品構成によって展示会を開催した。即ち、昭和38年「近代生活とデザイン」、同39年「現代のデザイン」、同40年「公共へのデザイン」がそれぞれのテーマであった。この間、早くも第2回から名古屋展が加わり、以来昭和55年の第18回開催まで愛知県、名古屋市等の協力で延べ17年間にわたり名古屋展が開催された。

昭和41年の第4回展からは展示構成に大きな変化がもたらされた。Gマーク商品の本展への出品である。それまでも、出品物の中にGマーク商品を含めることはあったが、出品構成のほとんどをGマーク商品で占めるという展示企画はこの時が最初であり、この方針は本展が終了する昭和61年の第24回まで一貫して継続された。テーマも第4回は「くらしの中のGマーク」となった。

昭和42年の第5回から大阪展が加わり、以来最終回の昭和61年の第24回まで延べ20年間大阪展の開催が大阪府、市等の協力で行われた。

その後、昭和45年の第8回展までは東京、大阪、名古屋の3大都市における展示がつづくが、翌46年以後、九州、中国、四国、東北、北海道各地展の開催が年々加わり、昭和48年の第11回に「'73デザインイヤー展覧会」として全国8都市開催のピークを迎える。この年は、'73デザインイヤー事業を展開するデザインイヤー運営会の主催というかたちで本展が開催された。48年はこの年1回の開催で入場者は過去最高の約14万人を記録した。

この間、昭和47年には本展の名称および組織の名称変更が行われた。昭和47年6月、本展の名称をそれまでの日本輸出デザイン展から日本グッドデザイン展に、また、組織の名称をそれまでのデザイン振興協議会（昭和38～43年）、日本輸出デザイン展（昭和44～45年）、日本輸出デザイン展協議会（昭和46年）から日本グッドデザイン展協議会に変更し、以後昭和61年の最終回までその名称が継承された。

昭和48年に'73デザインイヤー展覧会としての開催があったあと、昭和52年の第15回展はGマーク商品選定制度が創設20周年の年にあたるため、タイトルを「20年くらしに生きるGマーク」として全国の主要7都市において盛大に本展を開催したが、この年の入場者は昭和48年の記録をさらに大きく更新し約40万人を数え、本展の開催24年間の中で最多の入場者数を記録した。

また、昭和57年の第20回展も、第15回展と同様にGマーク商品選定制度の創設25周年を記念し、タイトルを「Gマーク25年のあゆみ」として開催、さらに最終回にあたる昭和61年の第24回展もGマーク制度の30年目を記念して、タイトルを「Gマーク30年記念展」として開催した。

以上のようにグッドデザイン展は昭和30年代の末期にその展示活動を開始し、主として同40年代および50年代の20余年にわたり全国各地の主要16都市において延べ284万3248人の参観者を動員し、その24年間延べ91会場における展示会の開催にその幕を閉じた。

この間、皇室におかれては本展の開催に深いご理解を示され、皇太子殿下にあらわれては昭和41年、45年、49年、52年、57年の各年度に都合5回にわたり御来臨を賜わり、また同妃殿下にあらわれては昭和41年、49年、52年、57年の各年度に都合4回にわたる御来臨を賜わった。これも、ひとえにわが国産業の振興ならびに国民生活の質的向上という本展の開催目的に特段のご関心とご理解をいただいた賜ものと関係者一同深く感謝する次第である。

昭和61年から同62年にかけて、本展の開催に関連して新しい要望が全国各地の都市から寄せられた。それは、これまでの中央組織の企画と運営による地方展の開催というかたちではなく、全国各地の自治体等の主催者が自主的に開催を行う各種イベントの場にGマーク商品の展示コーナーを設けようという地元の要望である。表現をかえれば、これまで約四分の一世紀にわたって継続してきた地方に対するデザイン振興活動の成果が、ようやくここにきてデザイン展の地方自主開催というかたちで表われはじめたともいえる最も望ましい方向で打ち出されてきた訳で、これまでの組織と運営により実施してきた本展は昭和61年度事業をもって組織を解散し、その事業の運営に終止符を打つこととなった。なお、その後の各地におけるGマーク商品等に関する展示協力業務については、Gマーク商品選定事業の受託機関である日本産業デザイン振興会がその任にあたることになった。まさに、デザイン面でも「地方の時

代」の到来を示唆した動きであった。

本展の主催者は、昭和38年発足当初は日本商工会議所、日本貿易振興会、日本繊維意匠センター、日本陶磁器意匠センター、日本輸出雑貨センター、日本機械デザインセンターの6団体から構成されるデザイン振興協議会に通商産業省と東京都を加えた8機関であったが、昭和46年日本貿易振興会がそれまで実施してきたデザイン業務を日本産業デザイン振興会に移管するに当たり、本展の主催者から退き後援者になられたこと、また日本産業デザイン振興会は昭和44年に主催者に加わり、日本住宅設備システム協会にあっては昭和53年に同協会がGマーク商品選定業務に協力を開始したのを機に本展の主催者に加わった。このほかにも、各地区における主催者としては数多くの関係団体が参画され協力したのはいうまでもない。

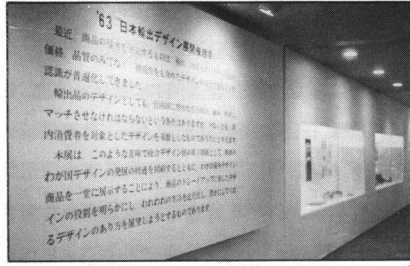
また、協賛団体として協賛金を永年にわたって拠出し本展への協力をいただいた日本電子機械工業会、日本電機工業会、日本事務機械工業会、軽金属製品協会、日本写真機工業会、日本照明器具工業会等数多くの業界団体のご支援は特筆されなければならない。

24年間の永きにわたり、本展の開催に最も効果的な会場を提供した各開催地の百貨店をその会員にもつ日本百貨店協会の協力に対しても特段の謝意を呈する必要がある。

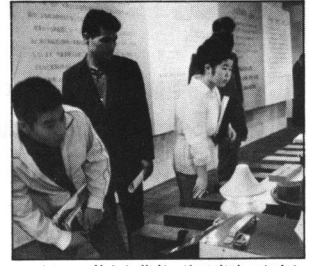
このようにして、本展は関係各位の多大なご支援とご協力を得てはじめて成果をあげることができた。日本グッドデザイン展開催24年の歩みをふりかえり関係各位へのご報告にかえさせていただきたい。



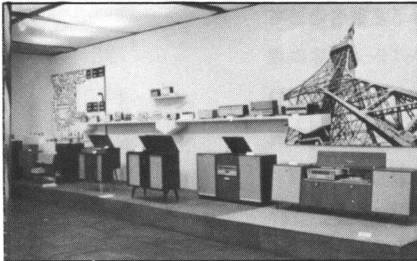
昭和38年10月1日から6日まで、東京日本橋・高島屋8階で記念すべき第1回目の'63日本輸出デザイン展が開催された。  
(昭和38年度、東京会場)



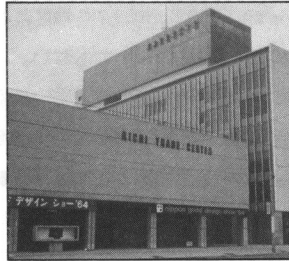
会場入口の開催趣旨パネルに、「戦後のわが国デザインの発展の経過を回顧し、商品のトレードアップ（輸出振興）に果たしたデザインの役割を明らかに…」と記されている。  
(昭和38年度、東京会場)



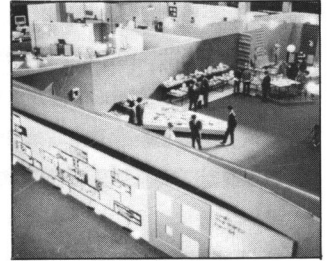
デザインに熱心な若者の姿は当時でも変わらない。  
(昭和38年度、東京会場)



プリント基板と東京タワーの写真を背景に、ラジオとステレオの展示が行われた。  
(昭和38年度、東京会場)

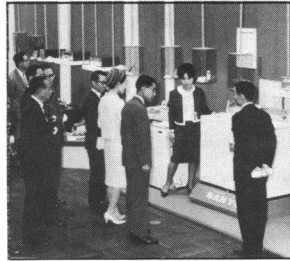


愛知県産業貿易館で、初めての日本輸出デザイン展名古屋展が開催された。  
(昭和39年度、名古屋会場)



昭和39年、名古屋で開催された「ニッポン・グッドデザイン・ショー'64」の一部に日本輸出デザイン展が展示構成された。  
(昭和39年度、名古屋会場)

写真でつづる  
日本グッドデザイン展



昭和41年9月、第4回「'66日本輸出デザイン展」に初めてご来臨になられた皇太子・同妃両殿下。  
(昭和41年度、東京会場)



この時代におけるモーターボートの展示は、カーステレオを装着した大衆車の展示とともに入場者の夢を盛り上げるのに充分だった。  
(昭和41年度、東京会場)



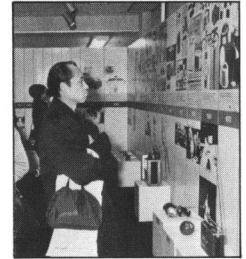
昭和42年、この年大阪なんば・高島屋で大阪で初めての日本輸出デザイン展が開催された。  
(昭和42年度、大阪会場)



昭和45年9月、日本産業デザイン振興会展示場で開催された「'70日本輸出デザイン展」にご来臨の皇太子殿下。  
(昭和45年度、東京会場)



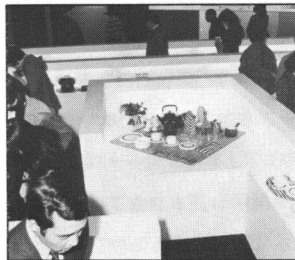
昭和48年度は'73デザイン・イン・ヤール地区展として全国8都市で開催された。  
(昭和48年度、大阪会場)



展示構成のひとつとして展示された新日ラジオとデザインの背景資料展示。  
(昭和49年度、東京会場)



日本グッドデザイン展の展示構成のひとつとして、海外優秀デザイン見本について事務局からご説明をお聞きになる皇太子・同妃両殿下。  
(昭和49年度、東京会場)



Gマークを形どった展示台にレイアウトされた海外優秀デザイン見本。  
(昭和49年度、東京会場)



北陸は金沢での日本グッドデザイン展。  
(昭和49年度、金沢会場)

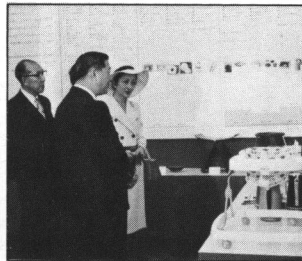




北陸金沢の百貨店で開かれた本展の美しいディスプレイ・レイアウト。  
(昭和49年度、金沢会場)



九州は宮崎で開催された日本グッドデザイン展。  
(昭和50年度、宮崎会場)



Gマーク制度の歴史についてご説明をお聞きになる皇太子・同妃両殿下。  
(昭和52年度、東京会場)



日本グッドデザイン展にご来臨になった皇太子・同妃両殿下。  
(昭和52年度、東京会場)



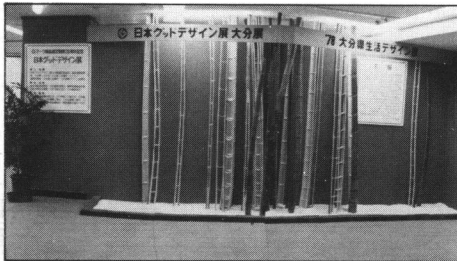
会場入口のタイトル看板は遠方から目を引くようにつくられた。  
(昭和52年度、東京会場)



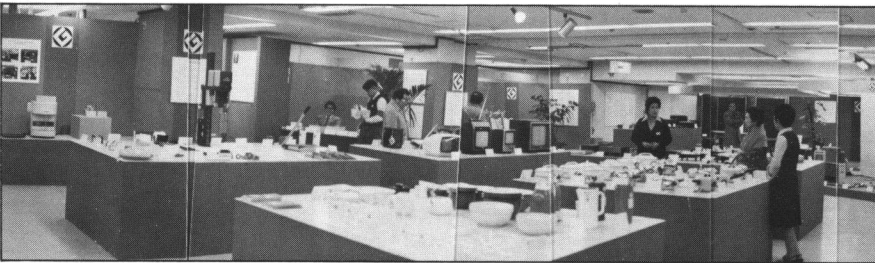
百貨店の店内20数か所に百貨店側の経費負担で吊下げ掲示板がつけられた。  
(昭和52年度、東京会場)



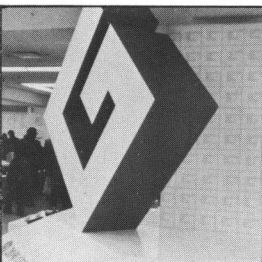
百貨店の1階入口の柱につけられた看板。  
(昭和52年度、大分会場)



地方都市ならではの入口付近の展示方法。  
(昭和52年度、大分会場)



展示場全体に統一したイメージで着きがみられる。  
(昭和52年度、大分会場)



展示技術に工夫がみられる。特別に作られた立体的なマークとGマークの連続模様による壁張り地等。  
(昭和52年度、大阪会場)



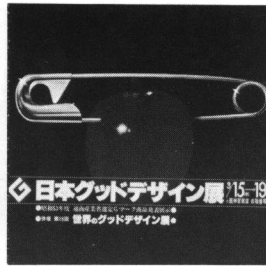
Gマーク制度のあゆみの資料とともに展示される各年度の選定商品。  
(昭和52年度、大阪会場)



同じ展示品でもガステーブル等は主婦の目を引く。  
(昭和53年度、大阪会場)



訴求力の強いポスターは車内で人の目を引く。  
(昭和53年度、大阪会場)



訴求力の強いポスターが各開催地で作られた。  
(昭和53年度、大阪会場)



展示場の出入りが楽になるように数ヶ所に分散して出入口が設けられた。  
(昭和54年度、大阪会場)



地下鉄車内の中吊広告も効果的。  
(昭和54年度、大阪会場)



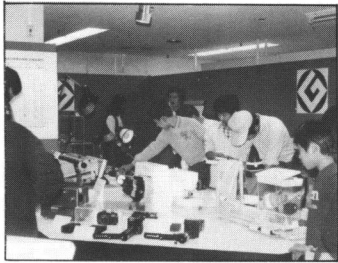
百貨店の屋外垂幕広告。  
(昭和55年度、東京会場)



日本グッドデザイン展の参観者の年齢層は巾が広い。  
(昭和55年度、東京会場)



地場産業（刃物）の展示。見やすさと同時に危険防止のための展示に工夫が図られた。  
(昭和55年度、東京会場)



出品商品の中でもカメラ等は若い年齢層の興味のもと。  
(昭和55年度、東京会場)



Gマーク商品の展示構成中のロングライフデザイン商品コーナー。  
(昭和55年度、東京会場)



百貨店の屋外広告のうち垂幕は特に効果的。  
(昭和55年度、大阪会場)



百貨店の屋外広告全景。  
(昭和56年度、東京会場)



日本グッドデザイン展の会期中にデザインセミナーが各地で併催された。  
(昭和56年度、東京会場)



百貨店の文具売場で行われたPOP販促広告。  
(昭和56年度、東京会場)



グッドデザイン大賞受賞商品の展示。  
(昭和56年度、大阪会場)



会期初日の早朝に関係者により行われた開会式。  
(昭和57年度、東京会場)



日本グッドデザイン展にご来臨になり、商品のデザインについて大変ご造詣の深いお話をかわされる皇太子・同妃両殿下。  
(昭和57年度、東京会場)



日本グッドデザイン展にご来臨になった皇太子・同妃両殿下。  
(昭和57年度、東京会場)



日本グッドデザイン展にご来臨になった皇太子・同妃両殿下にご説明するGマーク商品選定審査委員長。  
(昭和57年度、東京会場)



Gマーク商品とは別に、海外優秀デザイン商品見本の展示も行われ好評。(昭和57年度、大阪会場)



熱心に見入る参観者。(昭和57年度、大阪会場)



Gマーク制度の足跡を示すパネル展示も各地で積極的に行われた。(昭和57年度、金沢会場)



百貨店内の家庭用品売場で展開されたGマーク商品のPOP広告。(昭和58年度、東京会場)



百貨店の電気製品売場におけるGマーク商品のPOP販促活動。(昭和58年度、東京会場)



交通広告のひとつバス車内吊も有効な方法。(昭和58年度、金沢会場)



Gマーク商品選定審査委員による解説に聞き入る参観者。(昭和60年度、東京会場)



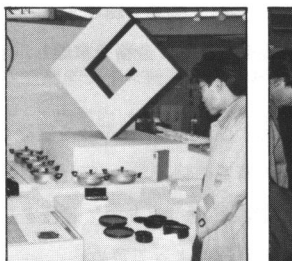
Gマーク商品の展示コーナーで審査委員による解説も行われた。(昭和60年度、東京会場)



展示構成の中でGマーク商品とは別に各開催地地場産業製品の照会も重要な役割を演じた。(昭和60年度、東京会場)



地場産品の立体的な展示方法にも工夫が凝らされた。(昭和60年度、東京会場)



展示構成の中でロングライフデザイン商品は多くの人の関心のま。(昭和60年度、大阪会場)



参観者の中には展示品を実際に手にとってみる人も多い。(昭和60年度、大阪会場)



日本グッドデザイン展-Gマーク30年記念展は東京麻布・ラフォーレミュージアム飯倉で開催された。(昭和61年度、東京会場)



Gマーク30年記念展の展示構成のひとつとして制度発足当時の選定商品が展示された。(昭和61年度、東京会場)



ラフォーレミュージアムの照明装置を生かした展示が行われた。(昭和61年度、東京会場)

(名 称)

第 1 条 本会は日本グッドデザイン展協議会という。

(目 的)

第 2 条 本会は全国の主要都市においてデザイン展を開催し、デザインの向上を図ることにより産業の発展ならびに国民生活の文化的向上に寄与することを目的とする。

(事務所の所在地)

第 3 条 本会の主たる事務所を東京都港区におく。

2. 本会の従たる事務所を全国の開催都道府県の主要都市におくことができる。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

(1) デザイン展の開催

(2) その他本会の目的達成に必要な事業

(会 員)

第 5 条 本会の会員は、本展開催都道府県市、日本商工会議所、日本繊維意匠センター、日本陶磁器意匠センター、生活用品振興センター、日本機械デザインセンター、日本住宅設備システム協会、日本産業デザイン振興会、その他主催者として分担金を負担する団体とする。

第 6 条 会員は、毎事業年度本会の事業に必要な経費の一部を負担しなければならない。

(役 員)

第 7 条 本会に次の役員をおく。

(1) 会 長 1名

(2) 副会長 1名

(3) 理 事 40名以内

(4) 監 事 若干名

第 8 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2. 副会長は、会長を補佐して会務を掌理し、会長事故あるときは、その職務を代行する。

3. 会長、副会長および理事は、理事会を組織し、本会の重要事項を処理する。

4. 監事は、本会の事業の執行および財産の状況を監査する。

第 9 条 理事および監事は、総会において選任する。

2. 会長は、理事の互選によって定める。

3. 副会長は、理事会の同意を得て会長が選任する。

第 10 条 役員は、任期終了は 2 年とする。ただし、重任は妨げない。

2. 役員は、任期終了後であっても、後任者が就任するまではなおその任にあたるものとする。

(会 議)

第 11 条 総会は会長がこれを招集し、その議長となる。

2. 総会は毎年 1 回以上開催する。

3. 総会の招集は会日の 10 日前までに日時、場所および目的を記載した書面を会員に発しては行なう。

4. 総会は会員の 3 分の 2 以上が出席することにより成立し、議事は出席者の 3

分の2以上の多数をもって議決する。

5. 会長が必要と認めるときは、書面により総会の議決を行なうことができる。
6. 前項の規定により議決権を行なう者は、出席者とみなす。
7. 総会の議事については、議事録をつくり議長および出席した会員2名以上がこれに署名捺印するものとする。

第12条 総会はこの規約に定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 規約の変更
- (2) 事業計画および収支予算
- (3) 事業報告および収支決算
- (4) 解散および残余財産処分
- (5) その他会長が必要と認めた事項

第13条 理事会は、会長が認めた場合随時これを招集し、会長がその議長となる。

2. 理事会の議事は、理事の過半数が出席し、出席者の過半数でこれを決する。
3. 理事会の議事については、議事録をつくり議長および出席した理事2名以上がこれに署名捺印するものとする。

第14条 理事会は、この規約に定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に提出する事項
- (2) 業務の執行に関する事項
- (3) その他会長が必要と認めた事項

第15条 本会はデザイン展開催地地区別にそれぞれ運営委員会を設置する。

2. 前項の運営委員会の委員長は会長が委嘱し、委員は本会の会員およびデザイン展を開催する関係者の中から委員長が委嘱する。
3. 運営委員会の組織および運営に関する事項は、当該運営委員会においてこれを別に定める。

(顧問および参与)

第16条 本会に顧問および参与をおくことができる。

2. 顧問および参与は、理事会の議を経て会長がこれを委嘱する。

(事務局)

第17条 本会の事務局は、日本産業デザイン振興会内におく。

2. 事務局に関する規程は、この規約によるもののほか日本産業デザイン振興会の諸規程を準用する。
3. 事務局に事務局長および必要な事務職員をおき、事務局長は会長が任免する。

(資産および会計)

第18条 本会の事業年度は4月1日に始まり、翌年の3月31日に終る。

第19条 本会の経費は、会員の負担金、出品料、協賛金および雑収入をもってこれにあてる。

付 則

1. 本改正規約は、昭和61年9月26日より施行する。

昭和39年3月14日	制 定	昭和47年6月26日	一部改正
昭和43年6月6日	一部改正	昭和53年5月16日	一部改正
昭和44年6月26日	一部改正	昭和61年9月26日	一部改正
昭和46年7月27日	一部改正		



## 昭和38年度

### 役員

会長  
足立 正 日本商工会議所会頭

### 顧問

福田 一 通商産業大臣  
東 竜太郎 東京都知事  
石坂 泰三 (社) 経済団体連合会会長  
杉道 助 日本貿易振興会理事長  
稲垣 平太郎 (社) 日本貿易会会長

### 理事長

司 忠 東京商工会議所副会頭

### 理事

飯野 逸平 (財) 日本陶磁器輸出組合顧問  
賀集 益蔵 日本化学繊維協会会長  
倉田 主税 (社) 日本機械工業連合会会長  
小菅 宇一郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長  
紺野 利雄 東京都経済局長  
黒川 義雄 (前) 東京都経済局長  
鈴木 重光 日本綿糸布輸出組合理事長  
高城 元 日本商工会議所専務理事  
谷井 正敏 (社) 日本貿易会専務理事  
永井 精一郎 (財) 日本陶磁器輸出組合理事長  
長岡 正男 (財) 日本機械デザインセンター副理事長

中川 繁一 (財) 日本輸出雑貨センター副理事長  
中野 正一 中小企業庁長官  
樋詰 誠明 (前) 中小企業庁長官  
長村 貞一 日本貿易振興会副理事長  
野田 孝 日本百貨店協会会長  
原 吉平 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
弘中 協 (財) 日本機械デザインセンター理事長

堀越 禎三 (社) 経済団体連合会事務局長  
百瀬 結 (財) 日本機械デザインセンター副理事長

山本 重信 通商産業省通商局長  
松村 敬一 (前) 通商産業省通商局長

### 監事

葦沢 大義 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
野田 信夫 (財) 日本消費者協会理事長  
水田 直昌 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和39年度

### 役員

会長  
足立 正 日本商工会議所会頭

### 理事長

司 忠 東京商工会議所副会頭

### 理事

賀集 益蔵 日本化学繊維協会会長  
倉田 主税 (社) 日本機械工業連合会会長  
小菅 宇一郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長  
紺野 利雄 東京都経済局長  
鈴木 重光 日本綿糸布輸出組合理事長  
高城 元 日本商工会議所専務理事  
永井 精一郎 (財) 日本陶磁器輸出組合理事長  
長岡 正男 (財) 日本機械デザインセンター副理事長

中野 正一 中小企業庁長官  
長村 貞一 日本貿易振興会副理事長  
原 吉平 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
弘中 協 (財) 日本機械デザインセンター理事長  
松田 伊三雄 日本百貨店協会会長

### 監事

斉藤 正年 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
野田 信夫 (財) 日本消費者協会理事長  
水田 直昌 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和40年度

### 役員

会長  
足立 正 日本商工会議所会頭

### 理事長

司 忠 東京商工会議所副会頭

### 理事

越後 正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
賀集 益蔵 日本化学繊維協会会長  
倉田 主税 (社) 日本機械工業連合会会長  
小菅 宇一郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長  
高城 元 日本商工会議所専務理事  
高島 節男 通商産業省貿易振興局長  
谷井 正敏 (社) 日本貿易会専務理事  
永井 精一郎 (財) 日本陶磁器輸出組合理事長  
長村 貞一 日本貿易振興会副理事長  
常陸 壮吉 東京都経済局長  
弘中 協 (財) 日本機械デザインセンター理事長

堀越 禎三 (社) 経済団体連合会事務局長  
松田 伊三雄 日本百貨店協会会長  
松本 三郎 (財) 日本機械デザインセンター副理事長

三木 哲持 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
百瀬 結 (財) 日本機械デザインセンター副理事長

山本 重信 中小企業庁長官  
渡辺 弥栄司 通商産業省通商局長

### 監事

斎藤 正年 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
野田 信夫 (財) 日本消費者協会理事長  
水田 直昌 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和41年度

### 役員

会長  
足立 正 日本商工会議所会頭

### 理事長

司 忠 東京商工会議所副会頭

### 理事

井狩 彌治郎 日本百貨店協会会長  
今村 昇 通商産業省貿易振興局長  
越後 正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
影山 衛司 中小企業庁長官  
賀集 益蔵 日本化学繊維協会会長  
倉田 主税 (社) 日本機械工業連合会会長  
小菅 宇一郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長

## 資料Ⅱ

## 日本グッドデザイン展 協議会会員・役員名簿

(注：昭和46年度については記録不明のため掲載)

高城元 日本商工会議所専務理事  
 谷林正敏 (社) 日本貿易会専務理事  
 永井精一郎 (財) 日本陶磁器輸出組合理事長  
 村上公孝 日本貿易振興会副理事長  
 東辰三 愛知県商工部長  
 常陸壮吉 東京都経済局長  
 弘中協 (財) 日本機械デザインセンター  
 理事長  
 堀越禎三 (社) 経済団体連合会事務局長  
 松本三郎 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 三木哲持 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
 百瀬結 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 山崎隆造 通商産業省通商局長

監事  
 斎藤正年 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田信夫 (財) 日本消費者協会理事長  
 松本重雄 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和42年度

### 会員

通商産業大臣 菅野和太郎  
 東京都知事 美濃部亮吉  
 大阪府知事 左藤義詮  
 愛知県知事 桑原幹根  
 大阪市長 中馬肇  
 日本商工会議所会頭 足立正  
 日本貿易振興会理事長 駒村資正  
 (財) 日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
 (財) 日本輸出雑貨センター理事長 小菅宇一郎  
 (財) 日本繊維意匠センター理事長 三木哲持  
 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長 永井精一郎

### 役員

会長 足立正 日本商工会議所会頭

副会長 司忠 東京商工会議所副会頭

理事  
 井狩彌治郎 日本百貨店協会会長  
 今村具 通商産業省貿易振興局長  
 越後正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
 影山衛司 中小企業庁長官  
 工藤敏郎 大阪市経済局長  
 倉田主税 (社) 日本機械工業連合会会長  
 小菅宇一郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長  
 鈴木登 大阪府商工部長  
 高城元 日本商工会議所専務理事  
 谷林正敏 (社) 日本貿易会専務理事  
 永井精一郎 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
 東辰三 愛知県商工部長  
 常陸壮吉 東京都経済局長  
 弘中協 (財) 日本機械デザインセンター  
 理事長  
 堀越禎三 (社) 経済団体連合会事務局長  
 三木哲持 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
 宮崎輝 日本化学繊維協会会長  
 村上公孝 日本貿易振興会副理事長

百瀬結 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 安嶋外喜雄 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 山崎隆造 通商産業省通商局長  
 監事  
 斎藤正年 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田信夫 (財) 日本消費者協会理事長  
 松本重雄 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和43年度

### 会員

通商産業大臣 椎名悦三郎  
 東京都知事 美濃部亮吉  
 大阪府知事 左藤義詮  
 愛知県知事 桑原幹根  
 大阪市長 中馬肇  
 名古屋市長 杉戸清  
 日本商工会議所会頭 足立正  
 日本貿易振興会副理事長 村上公孝  
 (財) 日本繊維意匠センター理事長 谷口豊三郎  
 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長 永井精一郎  
 (財) 日本輸出雑貨センター理事長 井上清太郎  
 (財) 日本機械デザインセンター理事長 弘中協

### 役員

会長 足立正 日本商工会議所会頭

副会長 司忠 東京商工会議所副会頭

理事  
 井上清太郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長  
 越後正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
 乙竹虔三 中小企業庁長官  
 影山衛司 日本商工会議所専務理事  
 岸田文武 大阪府商工部長  
 工藤敏郎 大阪市経済局長  
 倉田主税 (社) 日本機械工業連合会会長  
 杉本正人 名古屋市長  
 谷口豊三郎 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
 谷林正敏 (社) 日本貿易会専務理事  
 永井精一郎 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
 原田明 通商産業省貿易振興局長  
 常陸壮吉 東京都経済局長  
 弘中協 (財) 日本機械デザインセンター  
 理事長  
 堀越禎三 (社) 経済団体連合会事務局長  
 松田伊三雄 日本百貨店協会会長  
 宮崎輝 日本化学繊維協会会長  
 宮沢鉄蔵 通商産業省通商局長  
 村上公孝 日本貿易振興会副理事長  
 百瀬結 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 安嶋外喜雄 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 鷺巣英策 愛知県商工部長  
 監事  
 斎藤正年 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事

野田信夫 (財) 日本消費者協会理事  
松本重雄 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和44年度

### 会員

通商産業大臣 大平正芳  
東京都知事 美濃部亮吉  
大阪府知事 左藤義詮  
愛知県知事 桑原幹根  
大阪市長 中馬馨  
名古屋市長 杉戸清  
日本商工会議所会頭 足立正  
日本貿易振興会副理事長 村上公孝  
(財) 日本繊維意匠センター理事長 谷口豊三郎  
(財) 日本陶磁器意匠センター理事長 永井精一郎  
(財) 日本輸出雑貨センター理事長 井上清太郎  
(財) 日本機械デザインセンター理事長 弘中協

### 役員

会長 足立正 日本商工会議所会頭

副会長 司忠 東京商工会議所副会頭

### 理事

井上清太郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長  
越後正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
乙竹虔三 中小企業庁長官  
影山衛司 日本商工会議所専務理事  
岸田文武 大阪府商工部長  
工藤敏郎 大阪市経済局長  
杉本正人 名古屋市長  
谷口豊三郎 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
土屋鉄蔵 東京都経済局長  
永井精一郎 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
原田直二 (社) 日本貿易会専務理事  
原田明 通商産業省貿易振興局長  
倉田主税 (社) 日本機械工業連合会会長  
弘中協 (財) 日本機械デザインセンター理事長  
堀越禎三 (社) 経済団体連合会事務総長  
松田伊三雄 日本百貨店協会会長  
宮崎輝 日本化学繊維協会会長  
村上公孝 日本貿易振興会副理事長  
百瀬結 (財) 日本機械デザインセンター副理事長  
安嶋外喜雄 (財) 日本機械デザインセンター副理事長  
鷺巣英策 愛知県商工部長

### 監事

奥村虎雄 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
野田信夫 (財) 日本消費者協会理事  
松本重雄 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和45年度

### 会員

通商産業大臣 宮沢喜一  
東京都知事 美濃部亮吉

大阪府知事 左藤義詮  
愛知県知事 桑原幹根  
大阪市長 中馬馨  
名古屋市長 杉戸清  
日本商工会議所会頭 永野重雄  
日本貿易振興会副理事長 村上公孝  
(財) 日本繊維意匠センター理事長

谷口豊三郎  
(財) 日本陶磁器意匠センター理事長 永井精一郎  
(財) 日本輸出雑貨センター理事長 井上清太郎  
(財) 日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
(財) 日本産業デザイン振興会理事長 司忠

### 役員

会長 足立正 日本商工会議所会頭

副会長 司忠 東京商工会議所副会頭

### 理事

井上清太郎 (財) 日本輸出雑貨センター理事長  
越後正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
影山衛司 日本商工会議所専務理事  
岸田文武 大阪府商工部長  
工藤敏郎 大阪市経済局長  
後藤正記 通商産業省貿易振興局長  
田口連三 (社) 日本機械工業連合会会長  
谷口豊三郎 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
土屋鉄蔵 東京都経済局長  
永井精一郎 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
原田直二 (社) 日本貿易会専務理事  
原田明 通商産業省通商局長  
弘中協 (財) 日本機械デザインセンター理事長  
福島利雄 名古屋市長  
堀越禎三 (社) 経済団体連合会副会長  
松田伊三雄 日本百貨店協会会長  
宮崎輝 日本化学繊維協会会長  
村上公孝 日本貿易振興会副理事長  
百瀬結 (財) 日本機械デザインセンター副理事長  
安嶋外喜雄 (財) 日本機械デザインセンター副理事長  
吉光久 中小企業庁長官  
鷺巣英策 愛知県商工部長

監事  
奥村虎雄 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
野田信夫 (財) 日本消費者協会理事  
松本重雄 全国銀行協会連合会専務理事

## 昭和47年度

### 会員

通商産業大臣 中曽根康弘  
東京都知事 美濃部亮吉  
大阪府知事 黒田了一  
愛知県知事 桑原幹根  
福岡県知事 龜井光  
広島県知事 永野巖雄  
北海道知事 堂垣内尚弘  
大阪市長 大島靖



名古屋市長 本山政雄  
 北九州市長 谷伍平  
 福岡市長 進藤一馬  
 広島市長 山田節男  
 札幌市長 板垣武四  
 日本商工会議所会頭 永野重雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 河崎邦夫  
 (財)日本陶磁器意匠センター副理事長 伊藤銀治  
 (財)日本雑貨振興センター理事長 三ヶ尻庄太郎  
 (財)日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
 (財)日本産業デザイン振興会理事長 司忠

**役員**

会長代行 司忠 (財)日本産業デザイン振興会理事長

副会長 司忠 (財)日本産業デザイン振興会理事長

**理事**  
 増田実 通商産業省貿易振興局長  
 小松勇五郎 通商産業省通商局長  
 三柴喜久雄 東京都経済局長  
 織田季明 大阪府商工部長  
 井川博 愛知県商工部長  
 黒田穰一 福岡県商工水産部長  
 田中稔 広島県商工労働部長  
 気境公男 北海道商工観光部長  
 麻正保 大阪市経済局長  
 西川久勝 名古屋市経済局長  
 町田千秋 北九州市経済局長  
 牧良夫 福岡市経済局長  
 久保田勤 広島市産業局長  
 田中博 札幌市経済局長  
 影山衛司 日本商工会議所専務理事  
 河崎邦夫 (財)日本繊維意匠センター理事長  
 伊藤銀治 (財)日本陶磁器意匠センター副理事長  
 三ヶ尻庄太郎 (財)日本雑貨振興センター理事長  
 弘中協 (財)日本機械デザインセンター理事長  
 百瀬結 (財)日本機械デザインセンター副理事長  
 安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター副理事長  
 莊清 中小企業庁長官  
 野見山勉 日本貿易振興会副理事長  
 古屋徳兵衛 日本百貨店協会会長  
 原田直二 (社)日本貿易会専務理事  
 堀越禎一 (社)経済団体連合会副会長  
 越後正三 日本綿糸布輸出組合理事長  
 大屋晋三 日本化学繊維協会会長  
 田口連三 (社)日本機械工業連合会会長

**監事**  
 奥村虎雄 (社)日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田信夫 (財)日本消費者協会理事長  
 松本重雄 全国銀行協会連合会専務理事

**昭和48年度**

**会員**

通商産業大臣 中曽根康弘  
 東京都知事 美濃部亮吉  
 大阪府知事 黒田了一  
 愛知県知事 桑原幹根  
 福岡県知事 亀井光  
 岡山県知事 長野士郎  
 広島県知事 永野巖雄  
 北海道知事 堂垣内尚弘  
 宮城県知事 山本壮一郎  
 香川県知事 金子正則  
 大阪市長 大島靖  
 名古屋市長 本山政雄  
 北九州市長 谷伍平  
 福岡市長 進藤一馬  
 岡山市長 岡崎平夫  
 札幌市長 板垣武四  
 仙台市長 島野武  
 高松市長 脇信男  
 日本商工会議所会頭 永野重雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 河崎邦夫

(財)日本陶磁器意匠センター副理事長 伊藤銀治  
 (財)日本雑貨振興センター理事長 三ヶ尻庄太郎  
 (財)日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
 (財)日本産業デザイン振興会理事長 司忠

**役員**

会長代行 司忠 (財)日本産業デザイン振興会理事長

副会長 司忠 (財)日本産業デザイン振興会理事長

**理事**  
 増田実 通商産業省貿易振興局長  
 小松勇五郎 通商産業省通商局長  
 三柴喜久雄 東京都経済局長  
 織田季明 大阪府商工部長  
 井川博 愛知県商工部長  
 黒田穰一 福岡県商工水産部長  
 田中稔 広島県商工労働部長  
 小野年之 岡山県商工部長  
 気境公男 北海道商工観光部長  
 麻生卓哉 宮城県商工労働部長  
 坂弘二 香川県経済労働部長  
 麻正保 大阪市経済局長  
 西川久勝 名古屋市経済局長  
 町田千秋 北九州市経済局長  
 牧良夫 福岡市経済局長  
 久保田勤 広島市産業局長  
 保江輝義 岡山市経済局長  
 田中博 札幌市経済局長  
 菅井均 仙台市経済局長  
 小夫格之助 高松市産業部長  
 影山衛司 日本商工会議所専務理事  
 河崎邦夫 (財)日本繊維意匠センター理事長  
 伊藤銀治 (財)日本陶磁器意匠センター副理事長  
 三ヶ尻庄太郎 (財)日本雑貨振興センター理事長  
 弘中協 (財)日本機械デザインセンター理事長  
 百瀬結 (財)日本機械デザインセンター副理事長  
 安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター副理事長

庄 清 中小企業庁長官  
 野見山 勉 日本貿易振興会副理事長  
 古屋 徳兵衛 日本百貨店協会会長  
 原田 直二 (社) 日本貿易会専務理事  
 堀越 禎三 (社) 経済団体連合会副会長  
 越後 正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
 大屋 晋三 日本化学繊維協会会長  
 田口 連三 (社) 日本機械工業連合会会長

**監事**  
 奥村 虎雄 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田 信夫 (財) 日本消費者協会理事長  
 松本 重雄 全国銀行協会連合会副会長/  
 専務理事

影山 衛司 日本商工会議所専務理事  
 河崎 邦夫 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美 敏夫 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
 三ヶ尻 庄太郎 (財) 日本雑貨振興センター理事長  
 弘中 協 (財) 日本機械デザインセンター  
 理事長  
 百瀬 結 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 安嶋 外喜雄 (財) 日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 斎藤 太一 中小企業庁長官  
 野見山 勉 日本貿易振興会副理事長  
 飯田 新一 日本百貨店協会会長  
 原田 直二 (社) 日本貿易会専務理事  
 堀越 禎三 (社) 経済団体連合会副会長  
 越後 正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
 安居 喜造 日本化学繊維協会会長  
 田口 連三 (社) 日本機械工業連合会会長

**監事**  
 奥村 虎雄 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田 信夫 (財) 日本消費者協会理事長  
 松本 重雄 全国銀行協会連合会副会長/  
 専務理事

## 昭和49年度

### 会 員

通商産業大臣 河本 敏夫  
 東京都知事 美濃部 亮吉  
 大阪府知事 黒田 了一  
 愛知県知事 仲谷 義明  
 福岡県知事 亀井 光  
 広島県知事 宮沢 弘  
 北海道知事 堂垣内 尚弘  
 大阪市長 大島 靖  
 名古屋市長 本山 政雄  
 福岡市長 進藤 一馬  
 北九州市長 谷 伍平  
 広島市長 荒木 武  
 札幌市長 板垣 武四  
 (株)北国新聞社代表取締役社長 宮下 興吉  
 日本商工会議所会頭 永野 重雄  
 (財) 日本繊維意匠センター理事長 河崎 邦夫  
 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美 敏夫  
 (財) 日本雑貨振興センター理事長 三ヶ尻 庄太郎  
 (財) 日本機械デザインセンター理事長 弘中 協  
 (財) 日本産業デザイン振興会会長 司 忠

### 役 員

会 長 司 忠 (財) 日本産業デザイン振興会会長  
 副会長 長村 貞一 (財) 日本産業デザイン振興会理事長

### 理 事

岸田 文武 通商産業省貿易局長  
 橋本 利一 通商産業省通商政策局長  
 岡田 三郎 東京都経済局長  
 織田 季明 大阪府商工部長  
 井村 巧 愛知県商工部長  
 黒田 穰一 福岡県商工水産部長  
 田中国 義 広島県商工労働部長  
 気境 公男 北海道商工観光部長  
 稲田 芳郎 大阪市経済局長  
 杉戸 政弥 名古屋市経済局長  
 西津 茂 福岡市経済局長  
 大墨 常松 北九州市経済局長  
 花岡 正登 広島市産業局長  
 田中 博 札幌市経済局長  
 幸山 憲治 (株)北国新聞社事業局長

## 昭和50年度

### 会 員

通商産業大臣 河本 敏夫  
 東京都知事 美濃部 亮吉  
 大阪府知事 黒田 了一  
 愛知県知事 仲谷 義明  
 岡山県知事 長野 士郎  
 宮崎県知事 黒木 博  
 大阪市長 大島 靖  
 名古屋市長 本山 政雄  
 岡山市長 岡崎 平夫  
 宮崎市長 清山 芳雄  
 日本商工会議所会頭 永野 重雄  
 (財) 日本繊維意匠センター理事長 河崎 邦夫  
 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美 敏夫  
 (財) 日本雑貨振興センター理事長 三ヶ尻 庄太郎  
 (財) 日本機械デザインセンター理事長 弘中 協  
 (財) 日本産業デザイン振興会会長 司 忠

### 役 員

会 長 司 忠 (財) 日本産業デザイン振興会会長  
 副会長 長村 貞一 (財) 日本産業デザイン振興会理事長

### 理 事

岸田 文武 通商産業省貿易局長  
 橋本 利一 通商産業省通商政策局長  
 岡田 三郎 東京都経済局長  
 織田 季明 大阪府商工部長  
 井村 巧 愛知県商工部長  
 森 和久 岡山県商工部長  
 四本 茂 宮崎県商工労働部長  
 稲田 芳郎 大阪市経済局長  
 杉戸 政弥 名古屋市経済局長

保江輝義 岡山市経済局長  
 長友貞蔵 宮崎市経済局長  
 影山衛司 日本商工会議所専務理事  
 河崎邦夫 (財)日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美敏夫 (財)日本陶磁器意匠センター理事長  
 三ヶ尻庄太郎 (財)日本雑貨振興センター理事長  
 弘中協 (財)日本機械デザインセンター  
 理事長  
 百瀬結 (財)日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 斎藤太一 中小企業庁長官  
 野見山勉 日本貿易振興会副理事長  
 飯田新一 日本百貨店協会会長  
 原田直二 (社)日本貿易会専務理事  
 堀越禎三 (社)経済団体連合会副会長  
 越後正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
 安居喜造 日本化学繊維協会会長  
 田口連三 (社)日本機械工業連合会会長

監事  
 奥村虎雄 (社)日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田信夫 (財)日本消費者協会理事長  
 松本重雄 全国銀行協会連合会副会長/  
 専務理事

高橋淑郎 日本商工会議所専務理事  
 大谷一二 (財)日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美敏夫 (財)日本陶磁器意匠センター理事長  
 三ヶ尻庄太郎 (財)日本雑貨振興センター理事長  
 弘中協 (財)日本機械デザインセンター  
 理事長  
 百瀬結 (財)日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター  
 副理事長  
 岸田文武 中小企業庁長官  
 野見山勉 日本貿易振興会副理事長  
 伊藤鈴三郎 日本百貨店協会会長  
 原田直二 (社)日本貿易会専務理事  
 花村仁八郎 (社)経済団体連合会事務総長  
 越後正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
 安居喜造 日本化学繊維協会会長  
 田口連三 (社)日本機械工業連合会会長

監事  
 奥村虎雄 (社)日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田信夫 (財)日本消費者協会理事長  
 松本重雄 全国銀行協会連合会副会長/  
 専務理事

## 昭和51年度

### 会 員

通商産業大臣 河本敏夫  
 東京都知事 美濃部亮吉  
 大阪府知事 黒田了一  
 愛知県知事 仲谷義明  
 山梨県知事 田辺国男  
 大阪市長 大島靖  
 名古屋市長 本山政雄  
 甲府市長 河口親賀  
 日本商工会議所会頭 永野重雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 大谷一二  
 (財)日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美敏夫  
 (財)日本雑貨振興センター理事長 三ヶ尻庄太郎  
 (財)日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
 (財)日本産業デザイン振興会会長 司 忠

### 役 員

会 長 司 忠 (財)日本産業デザイン振興会会長

### 副会長

長 村 貞 一 (財)日本産業デザイン振興会理事長

### 理 事

森山信吾 通商産業省貿易局長  
 矢野俊比古 通商産業省通商政策局長  
 吉留俊雄 東京都経済局長  
 勝谷保 大阪府商工部長  
 小津修二 愛知県商工部長  
 丸山正輔 山梨県商工労働部長  
 稲田芳郎 大阪府経済局長  
 杉戸正彌 名古屋経済局長  
 坂本進 甲府市経済部長

## 昭和52年度

### 会 員

通商産業大臣 田中龍夫  
 東京都知事 美濃部亮吉  
 愛知県知事 仲谷義明  
 石川県デザイン振興会会長 中西陽一  
 大阪府知事 黒田了一  
 兵庫県知事 坂井時忠  
 広島県知事 宮沢弘  
 大分県知事 立木勝  
 名古屋市長 本山政雄  
 大阪市長 大島靖  
 神戸市長 宮崎辰雄  
 広島市長 荒木武  
 日本商工会議所会頭 永野重雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 大谷一二  
 (財)日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美敏夫  
 (財)日本雑貨振興センター理事長 廣野篤二  
 (財)日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
 (財)日本産業デザイン振興会会長 司 忠

### 役 員

会 長 司 忠 (財)日本産業デザイン振興会会長

### 副会長

長 村 貞 一 (財)日本産業デザイン振興会理事長

### 理 事

森山信吾 通商産業省貿易局長  
 矢野俊比古 通商産業省通商政策局長  
 岸田文武 中小企業庁長官  
 吉留俊雄 東京都経済局長  
 小津修二 愛知県商工部長  
 大田晃 石川県デザイン振興会事務局長  
 勝谷保 大阪府商工部長

田中正己 兵庫県工部部長  
 田中国義 広島県商工労働部長  
 北村四郎 大分県商工労働部長  
 杉戸政彌 名古屋市経済局長  
 稲田芳郎 大阪市経済局長  
 宮岡寿雄 神戸市経済局長  
 花岡正登 広島市経済局長  
 高橋淑郎 日本商工会議所専務理事  
 大谷一二 (財)日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美敏夫 (財)日本陶磁器意匠センター理事長  
 廣野篤二 (財)日本雑貨振興センター理事長  
 弘中協 (財)日本機械デザインセンター理事長  
 百瀬結 (財)日本機械デザインセンター副理事長  
 安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター副理事長  
 野見山勉 日本貿易振興会副理事長  
 伊藤鈴二郎 日本百貨店協会会長  
 原田直二 (社)日本貿易会専務理事  
 花村仁八郎 (社)経済団体連合会事務総長  
 越後正一 日本綿糸布輸出組合理事長  
 田口連三 (社)日本機械工業連合会会長  
 監事  
 奥村虎雄 (社)日本鉄鋼連盟専務理事  
 野田信夫 (財)日本消費者協会理事長  
 松本重雄 全国銀行協会連合会副会長/  
 専務理事

## 昭和53年度

### 会員

通商産業大臣 河本敏夫  
 東京都知事 美濃部亮吉  
 愛知県知事 仲谷義明  
 石川県デザイン振興会会長 中西陽一  
 大阪府知事 黒田了一  
 名古屋市長 本山政雄  
 大阪市長 大島靖  
 日本商工会議所会頭 永野重雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 大谷一二  
 (財)日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美敏夫  
 (財)生活用品振興センター理事長 小菅一郎  
 (財)日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
 (社)日本住宅設備システム協会会長 稲山嘉寛  
 (財)日本産業デザイン振興会会長 司忠

### 役員

会長 司忠 (財)日本産業デザイン振興会会長  
 副会長 長村貞一 (財)日本産業デザイン振興会理事長

### 理事

水野上晃章 通商産業省貿易局長  
 左近反三郎 中小企業庁長官  
 沢田茂彌 東京都労働経済局長  
 能登勇 愛知県商工部長  
 大田晃 石川県デザイン振興会事務局長

佐藤和宏 大阪府工部部長  
 杉戸政彌 名古屋市経済局長  
 稲田芳郎 大阪市経済局長  
 保江輝義 岡山市経済局長  
 佐々木敏 日本商工会議所専務理事  
 大谷一二 (財)日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美敏夫 (財)日本陶磁器意匠センター理事長  
 小菅一郎 (財)生活用品振興センター理事長  
 安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター副理事長  
 江夏弘 (社)日本住宅設備システム協会専務理事  
 石田幸一 (財)日本産業デザイン振興会専務理事  
 来栖義郎 (財)日本産業デザイン振興会常務理事/事務局長  
 生駒勇 日本貿易振興会副理事長  
 小菅丹治 日本百貨店協会会長  
 原田直二 (社)日本貿易会専務理事  
 花村仁八郎 (社)経済団体連合会副会長/  
 事務総長  
 田口連三 (社)日本機械工業連合会会長

### 監事

奥村虎雄 (社)日本鉄鋼連盟専務理事  
 宇野政雄 (財)日本消費者協会会長

## 昭和54年度

### 会員

通商産業大臣 江崎真澄  
 宮城県知事 山本社一郎  
 東京都知事 鈴木俊一  
 愛知県知事 仲谷義明  
 石川県デザイン振興会会長 中西陽一  
 大阪府知事 岸昌  
 仙台市長 島野武  
 名古屋市長 本山政雄  
 大阪市長 大島靖  
 日本商工会議所会頭 永野重雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 宇野收  
 (財)日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美敏夫  
 (財)生活用品振興センター理事長 小菅一郎  
 (財)日本機械デザインセンター理事長 弘中協  
 (社)日本住宅設備システム協会会長 稲山嘉寛  
 (財)日本産業デザイン振興会会長 司忠

### 役員

会長 司忠 (財)日本産業デザイン振興会会長

### 副会長

長村貞一 (財)日本産業デザイン振興会理事長

### 理事

水野上晃章 通商産業省貿易局長  
 左近反三郎 中小企業庁長官  
 佐藤卓郎 宮城県商工労働部長  
 野口寿康 東京都労働経済局長  
 能登勇 愛知県商工部長  
 島村茂 石川県デザイン振興会事務局長

佐藤和宏 大阪府商工部長  
 佐々木重夫 仙台市経済局長  
 平岩利夫 名古屋市経済局長  
 稲田芳郎 大阪市経済局長  
 佐々木敏 日本商工会議所専務理事  
 宇野收 (財)日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美敏夫 (財)日本陶磁器意匠センター理事長  
 小菅一郎 (財)生活用品振興センター理事長  
 安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター副理事長

江夏弘 (社)日本住宅設備システム協会専務理事

石田幸一 (財)日本産業デザイン振興会専務理事

来栖義郎 (財)日本産業デザイン振興会常務理事/事務局長

生駒勇 日本貿易振興会副理事長

小菅丹治 日本百貨店協会会長

原田直二 (社)日本貿易会専務理事

花村仁八郎 (社)経済団体連合会副会長/事務総長

田口連三 (社)日本機械工業連合会会長

監事

奥村虎雄 (社)日本鉄鋼連盟専務理事

宇野政雄 (財)日本消費者協会会長

昭和55年度

会 員

通商産業大臣 佐々木 義 武  
 山形県知事 飯 垣 清一郎  
 東京都知事 鈴木 俊 一  
 愛知県知事 仲 谷 義 明  
 石川県デザイン振興会会長 中 西 陽 一  
 大阪府知事 岸 昌 昌  
 山形市長 金 澤 忠 雄  
 名古屋市長 本 山 政 雄  
 大阪市長 大 島 靖 靖  
 日本商工会議所会頭 永 野 重 雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 宇 野 收  
 (財)日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美 敏 夫  
 (財)生活用品振興センター理事長 小 菅 一 郎  
 (財)日本機械デザインセンター理事長代行 百 瀬 結  
 (社)日本住宅設備システム協会会長 稲 山 嘉 寛  
 (財)日本産業デザイン振興会会長 司 忠

役 員

会 長 司 忠 (財)日本産業デザイン振興会会長

副会長

長 村 貞 一 (財)日本産業デザイン振興会理事長

理 事

花岡宗助 通商産業省貿易局長  
 左近反三郎 中小企業庁長官  
 太田昭夫 山形県商工労働部長  
 野口寿康 東京都労働経済局長  
 能登勇 愛知県商工部長  
 島村茂 石川県デザイン振興会事務局長

佐藤和忠 大阪府商工部長

太田貞雄 山形市経済部長

平賀利夫 名古屋市経済局長

檜崎浩二 大阪市経済局長

佐々木敏 日本商工会議所専務理事

宇野收 (財)日本繊維意匠センター理事長

宇佐美敏夫 (財)日本陶磁器意匠センター理事長

小菅一郎 (財)生活用品振興センター理事長

安嶋外喜雄 (財)日本機械デザインセンター副理事長

江夏弘 (社)日本住宅設備システム協会専務理事

石田幸一 (財)日本産業デザイン振興会専務理事

来栖義郎 (財)日本産業デザイン振興会常務理事/事務局長

生駒勇 日本貿易振興会副理事長

小菅丹治 日本百貨店協会会長

京本善治 (社)日本貿易会専務理事

花村仁八郎 (社)経済団体連合会副会長/事務総長

田口連三 (社)日本機械工業連合会会長

監事

奥村虎雄 (社)日本鉄鋼連盟専務理事

宇野政雄 (財)日本消費者協会会長

昭和56年度

会 員

通商産業大臣 田 中 六 助  
 東京都知事 鈴 木 俊 一  
 石川県デザイン振興会会長 中 西 陽 一  
 大阪府知事 岸 昌 昌  
 大阪市長 大 島 靖 靖  
 日本商工会議所会頭 永 野 重 雄  
 (財)日本繊維意匠センター理事長 宇 野 收  
 (財)日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美 敏 夫  
 (財)生活用品振興センター理事長 小 菅 一 郎  
 (財)日本機械デザインセンター理事長 百 瀬 結  
 (社)日本住宅設備システム協会会長 稲 山 嘉 寛  
 (財)日本産業デザイン振興会会長 司 忠

役 員

会 長 司 忠 (財)日本産業デザイン振興会会長

副会長

長 村 貞 一 (財)日本産業デザイン振興会理事長

理 事

中澤忠義 通商産業省貿易局長  
 勝谷保 中小企業庁長官  
 太田昭夫 山形県商工労働部長  
 横田松寿 東京都労働経済局長  
 伊藤寛一 愛知県商工部長  
 島村茂 石川県デザイン振興会事務局長  
 高山幸重 大阪府商工部長  
 布施定男 山形市経済部長  
 稲葉宏 名古屋市経済局長  
 永野和成 大阪市経済局長

佐々木 敏 日本商工会議所専務理事  
 宇野 收 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美 敏夫 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
 小菅 一郎 (財) 生活用品振興センター理事長  
 百瀬 結 (財) 日本機械デザインセンター  
 理事長  
 江夏 弘 (社) 日本住宅設備システム協会  
 専務理事  
 小林 健夫 (財) 日本産業デザイン振興会  
 専務理事  
 来栖 義郎 (財) 日本産業デザイン振興会  
 常務理事/事務局長  
 生駒 勇 日本貿易振興会副理事長  
 野田 孝 日本百貨店協会会長  
 京本 善治 (社) 日本貿易会専務理事  
 花村 仁八郎 (社) 経済団体連合会副会長/  
 事務総長  
 田口 連三 (社) 日本機械工業連合会会長

監事  
 奥村 虎雄 (社) 日本鉄鋼連盟専務理事  
 杉原 栄次郎 (財) 日本消費者協会会長

## 昭和57年度

### 会員

通商産業大臣 安倍 晋太郎  
 東京都知事 鈴木 俊一  
 石川県デザイン振興会会長 中西 陽一  
 大阪府知事 岸 昌  
 大阪市長 大島 靖  
 日本商工会議所会頭 永野 重雄  
 (財) 日本繊維意匠センター理事長 宇野 收  
 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美 敏夫  
 (財) 生活用品振興センター理事長 小菅 一郎  
 (財) 日本機械デザインセンター理事長 百瀬 結  
 (社) 日本住宅設備システム協会会長 稲山 嘉寛  
 (財) 日本産業デザイン振興会会長 司 忠

### 役員

会長 司 忠 (財) 日本産業デザイン振興会会長

副会長 長村 貞一 (財) 日本産業デザイン振興会理事長

理事  
 福川 伸次 通商産業省貿易局長  
 神谷 和男 中小企業庁長官  
 河合 昇茂 東京都労働経済局長  
 島村 幸重 石川県デザイン振興会事務局長  
 高山 幸重 大阪府商工部長  
 永野 和成 大阪市経済局長  
 佐々木 敏 日本商工会議所専務理事  
 宇野 收 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美 敏夫 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
 小菅 一郎 (財) 生活用品振興センター理事長  
 百瀬 結 (財) 日本機械デザインセンター  
 理事長  
 江夏 弘 (社) 日本住宅設備システム協会  
 専務理事

小林 健夫 (財) 日本産業デザイン振興会  
 専務理事  
 来栖 義郎 (財) 日本産業デザイン振興会  
 常務理事/事務局長  
 生駒 勇 日本貿易振興会副理事長  
 小菅 丹治 日本百貨店協会会長  
 京本 善治 (社) 日本貿易会専務理事  
 花村 仁八郎 (社) 経済団体連合会副会長/  
 事務総長  
 田口 連三 (社) 日本機械工業連合会会長

監事  
 奥村 虎雄 (社) 日本鉄鋼連盟副会長/専務理事  
 杉原 栄次郎 (財) 日本消費者協会会長

## 昭和58年度

### 会員

通商産業大臣 宇野 宗佑  
 東京都知事 鈴木 俊一  
 石川県デザイン振興会会長 中西 陽一  
 大阪府知事 岸 昌  
 大阪市長 大島 靖  
 日本商工会議所会頭 永野 重雄  
 (財) 日本繊維意匠センター理事長 宇野 收  
 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長 宇佐美 敏夫  
 (財) 生活用品振興センター理事長 中川 鐵藏  
 (財) 日本機械デザインセンター理事長 小秋元 隆輝  
 (社) 日本住宅設備システム協会会長 稲山 嘉寛  
 (財) 日本産業デザイン振興会会長 司 忠

### 役員

会長 司 忠 (財) 日本産業デザイン振興会会長

副会長 長村 貞一 (財) 日本産業デザイン振興会理事長

理事  
 杉山 弘 通商産業省貿易局長  
 中沢 忠義 中小企業庁長官  
 河合 昇茂 東京都労働経済局長  
 島村 幸重 石川県デザイン振興会事務局長  
 高山 幸重 大阪府商工部長  
 永野 和成 大阪市経済局長  
 佐々木 敏 日本商工会議所専務理事  
 宇野 收 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
 宇佐美 敏夫 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
 中川 鐵藏 (財) 生活用品振興センター理事長  
 小秋元 隆輝 (財) 日本機械デザインセンター  
 理事長  
 江夏 弘 (社) 日本住宅設備システム協会  
 専務理事  
 小林 健夫 (財) 日本産業デザイン振興会  
 専務理事  
 来栖 義郎 (財) 日本産業デザイン振興会  
 常務理事/事務局長  
 宮本 四郎 日本貿易振興会副理事長  
 小菅 丹治 日本百貨店協会会長  
 京本 善治 (社) 日本貿易会専務理事  
 花村 仁八郎 (社) 経済団体連合会副会長/  
 事務総長

田 口 連 三 (社) 日本機械工業連合会会長

監 事

奥 村 虎 雄 (社) 日本鉄鋼連盟副会長／専務理事  
杉 原 栄次郎 (財) 日本消費者協会会長

昭和 59 年度

会 員

通商産業大臣 村 田 敬次郎  
東京都知事 鈴 木 俊 一  
(財) 石川県デザインセンター理事長  
福 光 博  
大阪府知事 岸 昌 昌  
大阪市長 大 島 靖 靖  
日本商工会議所会頭 五 島 昇 昇  
(財) 日本繊維意匠センター理事長  
宇 野 收 收  
(財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
宇佐美 敏 夫 夫  
(財) 生活用品振興センター理事長  
中 川 鐵 藏 藏  
(財) 日本機械デザインセンター理事長  
小秋元 隆 輝 輝  
(社) 日本住宅設備システム協会会長  
稲 山 嘉 寛 寛  
(財) 日本産業デザイン振興会会長  
長 村 貞 一 一

役 員

会 長  
長 村 貞 一 (財) 日本産業デザイン振興会会長

副会長  
石 丸 忠 富 (財) 日本産業デザイン振興会理事長

理 事  
村 岡 茂 生 通商産業省貿易局長  
石 井 賢 吾 中小企業庁長官  
砂 田 伸 二 東京都労働経済局長  
島 村 茂 茂 (財) 石川県デザインセンター専務理事  
井 上 宣 時 大阪府商工部長  
永 野 和 成 大阪市経済局長  
井 川 博 日本商工会議所専務理事  
宇 野 收 收 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
宇佐美 敏 夫 夫 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
中 川 鐵 藏 藏 (財) 生活用品振興センター理事長  
小秋元 隆 輝 輝 (財) 日本機械デザインセンター理事長  
江 夏 弘 弘 (社) 日本住宅設備システム協会専務理事  
小 林 健 夫 夫 (財) 日本産業デザイン振興会専務理事  
来 栖 義 郎 郎 (財) 日本産業デザイン振興会常務理事／事務局長  
宮 本 四 郎 郎 日本貿易振興会副理事長  
飯 田 新 一 一 日本百貨店協会会長  
京 本 善 治 治 (社) 日本貿易会専務理事  
花 村 仁八郎 八 (社) 経済団体連合会副会長／事務総長  
田 口 連 三 三 (社) 日本機械工業連合会会長

監 事

奥 村 虎 雄 (社) 日本鉄鋼連盟副会長／専務理事  
杉 原 栄次郎 (財) 日本消費者協会会長

昭和 60 年度

会 員

通商産業大臣 村 田 敬次郎  
東京都知事 鈴 木 俊 一  
(財) 石川県デザインセンター理事長  
福 光 博 博  
大阪府知事 岸 昌 昌  
大阪市長 大 島 靖 靖  
日本商工会議所会頭 五 島 昇 昇  
(財) 日本繊維意匠センター理事長  
宇 野 收 收  
(財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
井 元 啓 太 太  
(財) 生活用品振興センター理事長  
中 川 鐵 藏 藏  
(財) 日本機械デザインセンター理事長  
小秋元 隆 輝 輝  
(社) 日本住宅設備システム協会会長  
稲 山 嘉 寛 寛  
(財) 日本産業デザイン振興会会長  
長 村 貞 一 一

役 員

会 長  
長 村 貞 一 (財) 日本産業デザイン振興会会長

副会長  
石 丸 忠 富 (財) 日本産業デザイン振興会理事長

理 事  
村 岡 茂 生 通商産業省貿易局長  
木 下 博 生 中小企業庁長官  
砂 田 伸 二 東京都労働経済局長  
島 村 茂 茂 (財) 石川県デザインセンター専務理事  
井 上 宣 時 大阪府商工部長  
桐 山 謙 一 大阪市経済局長  
井 川 博 日本商工会議所専務理事  
宇 野 收 收 (財) 日本繊維意匠センター理事長  
井 本 啓 太 太 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長  
中 川 鐵 藏 藏 (財) 生活用品振興センター理事長  
小秋元 隆 輝 輝 (財) 日本機械デザインセンター理事長  
江 夏 弘 弘 (社) 日本住宅設備システム協会専務理事  
小 林 健 夫 夫 (財) 日本産業デザイン振興会専務理事  
来 栖 義 郎 郎 (財) 日本産業デザイン振興会常務理事／事務局長  
宮 本 四 郎 郎 日本貿易振興会副理事長  
飯 田 新 一 一 日本百貨店協会会長  
京 本 善 治 治 (社) 日本貿易会専務理事  
花 村 仁八郎 八 (社) 経済団体連合会副会長／事務総長  
田 口 連 三 三 (社) 日本機械工業連合会会長

監 事

奥 村 虎 雄 (社) 日本鉄鋼連盟副会長  
杉 原 栄次郎 (財) 日本消費者協会会長

昭和 61 年度

会 員

日本商工会議所会頭 五 島 昇 昇  
(財) 日本繊維意匠センター理事長  
瀧 澤 三 郎 郎

(財) 日本陶磁器意匠センター理事長 井元啓太	藤沢修 大阪府商工部長
(財) 生活用品振興センター理事長 中川鐵藏	桐山謙一 大阪市経済局長
(財) 日本機械デザインセンター理事長 小秋元隆輝	井川博 日本商工会議所専務理事
(社) 日本住宅設備システム協会会長 稲山嘉寛	瀧澤三郎 (財) 日本繊維意匠センター理事長
(財) 日本産業デザイン振興会会長 長村貞一	井元啓太 (財) 日本陶磁器意匠センター理事長
	中川鐵藏 (財) 生活用品振興センター理事長
	小秋元隆輝 (財) 日本機械デザインセンター 理事長
	江夏弘 (社) 日本住宅設備システム協会 専務理事
	高藪昭 (財) 日本産業デザイン振興会 常務理事
	宮本四郎 日本貿易振興会副理事長
	市原晃 日本百貨店協会会長
	齋藤成雄 (社) 日本貿易会専務理事
	花村仁八郎 (社) 経済団体連合会副会長
	田口連三 (社) 日本機械工業連合会会長
<b>役員</b>	
<b>会長</b> 長村貞一 (財) 日本産業デザイン振興会会長	
<b>副会長</b> 小林健夫 (財) 日本産業デザイン振興会理事長	
<b>理事</b>	<b>監事</b>
岩崎八男 中小企業庁長官	奥村虎雄 (社) 日本鉄鋼連盟顧問
能川克己 (財) 石川県デザインセンター 専務理事	杉原栄次郎 (財) 日本消費者協会会長

資料Ⅲ  
日本グッドデザイン展  
開催記録

<日本グッドデザイン展24年間の歴史>

展示会名称・日本輸出デザイン展 (昭和38~46年度) → 日本グッドデザイン展 (昭和47年度~  
主催者名称・通商産業省、都道府県市、デザイン振興協議会 (昭和38~43年度) → 日本輸出  
日本グッドデザイン展協議会 (昭和47~61年度)

第1回	(昭和38年度)	'63日本輸出デザイン展 “近代生活とデザイン”
第2回	(昭和39年度)	'64日本輸出デザイン展 “現代のデザイン”
第3回	(昭和40年度)	'65日本輸出デザイン展 “公共へのデザイン”
第4回	(昭和41年度)	'66日本輸出デザイン展 “くらしの中のGマーク”
第5回	(昭和42年度)	'67日本輸出デザイン展 “伸びゆく日本のGマーク”
第6回	(昭和43年度)	'68日本輸出デザイン展 “明日のデザインのために”
第7回	(昭和44年度)	'69日本輸出デザイン展 “世界に誇るGマーク”
第8回	(昭和45年度)	'70日本輸出デザイン展 “グッドデザイン70”
第9回	(昭和46年度)	'71日本輸出デザイン展 “豊かなくらしとデザイン”
第10回	(昭和47年度)	'72日本グッドデザイン展 “あなたの生活を創るデザイン”



61年度)

デザイン展 (昭和44~45年度) → 日本輸出デザイン展協議会 (昭和46年度) →

25

東京・日本橋高島屋 (10/1~6)	30,000人
東京・日本橋高島屋 (9/22~27) 名古屋・愛知県産業貿易館 (11/11~17)	54,000人
東京・日本橋高島屋 (8/17~22) 名古屋・愛知県産業貿易館 (11/11~16)	56,900人
東京・日本橋高島屋 (9/20~25) 名古屋・愛知県産業貿易館 (11/1~6)	57,000人
東京・日本橋高島屋 (9/5~11) 大阪・難波高島屋 (10/16~22) 名古屋・愛知県産業貿易館 (11/1~6)	100,500人
東京・日本橋高島屋 (9/10~5) 名古屋・愛知県産業貿易館 (10/12~17) 大阪・天満橋松坂屋 (11/5~10)	102,500人
東京・日本橋高島屋 (9/2~7) 大阪・天満橋松坂屋 (9/9~14) 名古屋・愛知県産業貿易館 (10/8~13) (注) 昭和44年6月、日本商工会議所より日本輸出デザイン展事務局を 日本産業デザイン振興会が引き継ぐ	104,000人
東京・浜松町世界貿易センタービル (9/17~26) 名古屋・愛知県産業貿易館 (10/8~13) 大阪・難波高島屋 (10/27~11/1)	72,000人
東京・日本橋高島屋 (8/31~9/5) 大阪・難波高島屋 (9/28~10/3) 名古屋・愛知県産業貿易館 (10/8~13) 広島・天満屋広島店 (10/15~20) 北九州・小倉玉屋 (11/11~15)	81,941人
東京・東京都立産業会館 (9/5~9) 札幌・丸井今井 (9/19~24) 名古屋・愛知県産業貿易館 (10/6~11) 大阪・阪神百貨店 (10/26~31) 広島・広島県立産業会館 (11/2~6) 福岡・岩田屋 (11/25~29)	91,061人

第11回	(昭和48年度)	'73デザインイヤー展覧会 “日本人の生活とデザイン”
第12回	(昭和49年度)	'74日本グッドデザイン展 “生活とデザイン”
第13回	(昭和50年度)	'75日本グッドデザイン展 “生活とデザイン”
第14回	(昭和51年度)	'76日本グッドデザイン展 “生活とデザイン”
第15回	(昭和52年度)	'77日本グッドデザイン展 Gマーク商品選定制度 20周年記念 “20年くらしに生きるGマーク”
第16回	(昭和53年度)	'78日本グッドデザイン展
第17回	(昭和54年度)	'79日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展)
第18回	(昭和55年度)	'80日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展)
第19回	(昭和56年度)	'81日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展)
第20回	(昭和57年度)	'82日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展)
第21回	(昭和58年度)	'83日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展)
第22回	(昭和59年度)	'84日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展)
第23回	(昭和60年度)	'85日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展)
第24回	(昭和61年度)	'86日本グッドデザイン展 (Gマーク30年記念展)

< 皇太子、同妃両殿下ご来臨の記録 >

第4回(昭和41年度)'66日本輸出デザイン展 “くらしの中のGマーク” 東京：日本橋高島屋

皇太子、同妃両殿下ご来臨

第8回(昭和45年度)'70日本輸出デザイン展 “グッドデザイン70” 東京：芝浜松町世界貿易センタービル

皇太子殿下ご来臨

第12回(昭和49年度)'74日本グッドデザイン展 “生活とデザイン” 東京：伊勢丹新宿店

皇太子、同妃両殿下ご来臨

第15回(昭和52年度)'77日本グッドデザイン展 “20年くらしに生きるGマーク” 東京：日本橋高島屋

皇太子、同妃両殿下ご来臨

第20回(昭和57年度)'82日本グッドデザイン展 (Gマーク商品展) 東京：大丸東京店

皇太子、同妃両殿下ご来臨

(注) デザイン振興協議会は、各団体が行うリデザイン振興事業を効果的に推進し、関係団体相互の業務の連絡調整を行いつつ、今後のデザイン振興施策、振興団体のあり方等について検討する場として、昭和37年4月に日本商工会議所、日本貿易振興会、日本繊維意匠センター、日本陶磁器意匠センター、日本輸出雑貨センターおよび日本機械デザインセンターの6団体で構成した振興活動組織です。

名古屋・愛知県産業貿易館 (10/6~11) 東京・科学技術館 (10/9~14) 大阪・阪神百貨店 (10/18~23) 札幌・丸井今井 (10/18~23) 仙台・藤崎 (11/9~14) 岡山・岡山天満屋 (11/9~14) 北九州・井筒屋 (11/9~14) 高松・高松市立美術館 (11/30~12/5)	141,060人
名古屋・愛知県産業貿易館 (10/5~10) 札幌・丸井今井 (10/10~15) 福岡・ニック (10/18~23) 大阪・そごう大阪店 (11/1~6) 金沢・北陸放送会館 (11/9~14) 広島・そごう広島店 (11/15~20) 東京・伊勢丹新宿店 (2/1~6)	100,173人
東京・伊勢丹新宿店 (1/22~2/27) 岡山・天満屋岡山店 (2/6~11) 大阪・阿倍野近鉄百貨店 (3/5~10) 名古屋・愛知県産業貿易館 (3/8~13) 宮崎・宮崎山形屋 (3/11~16)	90,029人
東京・伊勢丹新宿店 (1/13~18) 大阪・阪神百貨店 (1/27~2/1) 甲府・岡島 (2/4~9) 名古屋・名鉄百貨店 (3/4~9)	138,711人
東京・日本橋高島屋 (10/27~11/1) 神戸・神戸三ノ宮そごう (11/5~9) 大分・大分トキハ (2/9~20) 金沢・金沢大和 (2/16~20) 大阪・阪急百貨店 (2/17~22) 名古屋・名鉄百貨店 (2/24~3/1) 広島・広島三越 (2/28~3/5)	401,456人
東京・東急百貨店 (11/10~15) 金沢・金沢大和 (2/15~19) 名古屋・名鉄百貨店 (2/23~28) 大阪・阪神百貨店 (3/15~19)	148,562人
東京・東急百貨店 (10/5~10) 仙台・藤崎 (11/9~14) 金沢・金沢大和 (2/14~18) 大阪・阪急百貨店 (2/15~26) 名古屋・名鉄百貨店 (2/22~27)	205,429人
東京・西武百貨店 (10/17~22) 山形・大沼 (11/6~10) 金沢・金沢大和 (2/19~24) 名古屋・名鉄百貨店 (2/20~25) 大阪・阪神百貨店 (2/26~3/3)	174,620人
東京・西武百貨店 (2/5~10) 金沢・金沢大和 (2/18~23) 大阪・阪急百貨店 (2/19~24)	204,843人
東京・大丸東京店 (1/20~24) 大阪・阪神百貨店 (2/17~22) 金沢・金沢大和 (2/24~28)	66,646人
東京・三越本店 (1/24~29) 金沢・金沢大和 (2/2~6) 大阪・阪急百貨店 (2/10~15)	176,697人
東京・三越本店 (2/5~10) 大阪・阪神百貨店 (2/28~3/5) 金沢・産業振興センター (3/13~18)	104,231人
東京・三越本店 (2/4~9) 大阪・阪急百貨店 (2/14~19) 金沢・産業振興センター (3/20~24)	136,864人
東京・ラフォーレミュージアム (12/9~11)	4,025人

(以上, 延べ91都市2,843,248人)

## スタディの時代

事務局：グッドデザイン商品選定制度は昭和32年の制度発足以来、昭和61年度で30回目の選定を迎えるに至りました。この間に選定された商品の数は12,392点にのぼっています。

このグッドデザイン選定制度は、当時、国際問題化しつつあった日本商品による模倣問題に端を発し、オリジナリティの高い商品を育成しようという主旨、ややかたく言いますと、「デザインの優れた商品を選定推奨することにより、我が国産業の育成と国民生活の向上を目的」として発足しました。

以来30年、と言うことにはなりますが、この制度によって選定された商品を年を追ってふりかえてみますと、そこに大きな軌跡が描かれているように思われます。単にデザインの軌跡というだけでなく、我々の生活変遷、あるいは産業発展がそこから読みとれるようです。

そこで本日は、「Gマークの30年」を踏まえたレビュー、プレビューを語っていただきたいと考えました。

昭和32年と言うと、ご出席の先生方は大学生、あるいは社会に飛び込まれてすぐの頃と思いますが。

佐野：ともかく、何もかもが新しかった時代、若かった時代と言えるかも知れません。「3種の神器」という言葉がありました。冷蔵庫、洗濯機、掃除機を3種と言ったわけですが、神器と言うからには、手に入らない、家庭生活のあこがれの対象だったと言ってよいでしょう。

昭和30年（1955年）は、ともかく食うには困らなくなっていた時代です。朝鮮動乱をすぎて、気がついてみたら、ちゃんと食べていた。やっと生活を豊かにすることに気がまわりはじめた。その時、「アメリカ式文化生活」が光り輝いて見えたわけです。最初は映画で、60年代に入ってからブラウン管を通してですが、具体的に生活がみえてくる。

美しいママと、子供に理解のあるパパがいて、美しいキッチンにはごく普通の道具として「3種の神器」が使われている。ボーイフレンドが車で迎えにくるなどと言うのは、当時の私達から見て夢のような世界に思いました。

総括的に言えば「アメリカ式文化生活」、アメリカンライフスタイルと言い換えてもいいですが、それがモノの集合として私たちに見えていた。

それをシュミレーションして、ハウ・ツーに変えていくことが60年代の私たちの仕事であったと思います。

当然、最初は「ものまね」的です。だから当時「3種の神器」は選ばれていませんね。昭和32年にGマークに選ばれている電気がま、これはあっという間に普及した商品ですが、家庭の中にグッドデザインが持ち込まれた最初の事例と言ってよいでしょう。

西沢：インダストリアル・デザインにとっても「スタディの時代」だったと思います。

日本のデザインが確立するまでの前史として技術導入の時代があるわけですが、当時の産業工芸試験場（現、製品科学研究所）を中心に、アメリカのデザイナーの招聘が活発に行われ、日本からのデザイン留学生も多数海外へ出発していく。デザインの手法、方法、評価といった自主的な研究も活発でした。

佐野：あこがれがあるから作る、グラフィックの世界も同様でした。外国のデザイ

### Gマークの30年 デザインの新たな 次元に向けて

佐野 寛

株式会社モス・アドバタイジング  
代表取締役社長

田中 央

東京芸術大学美術学部非常勤講師

西沢 健

株式会社GK設計取締役副社長  
事務局（日本産業デザイン振興会）

ン、特にアメリカのデザインがカッコ良く見えた。ニューヨークのADC（アートディレクターズクラブ）の年鑑など、なめるように見たと思います。アメリカ式文化生活が各ジャンルに細分化されて、おのおの追求されていくわけですが、俯瞰的にみれば、デザインも同様だったと思います。

田中：インダストリアル・デザインの場合、アメリカだけでなく、ヨーロッパ的な考え方が一方にありました。

だからデザインの評価をめぐるでも、アメリカ流に「売れることがベスト」とあっさり評価するか、ヨーロッパ流に「消費者にこびることが真のデザインなのか」という2つの考え方があったようです。

初期のGマークの審査を見ると、荒っぽい言い方ですが、ヨーロッパ流の社会啓蒙活動的な色彩が濃かったように記憶しています。よく「Gマークは白でなきゃだめだ」とか「文様があってはいけない」とか、あげくには「Gマークは売れない」などと言われていましたね。

西沢：デザインプロセスの上でも、両者は関わるわけですが（アメリカの手法では、粘土は使わず、スケッチ（レンダリングと言う）を中心に進めていく）、アメリカ的でもヨーロッパ的でもない、日本のデザインの方法を様々な模索していた時代が昭和30年代と言ってよいでしょう。

## 日本的デザインの手法の確立

事務局：Gマークの選定制度は、昭和38年、東京オリンピックの1年前ですが、この年度から今日のような企業からの申請制度を採用しはじめます。

それまでは審査委員が文字通り足を使って集め、審査するという方法であったと聞きます。こうした制度の変更も、日本的なデザイン開発が軌道にのりはじめたという認識が行政側にあったと考えてよいでしょうか。

田中：詳しくはわかりませんが、Gマークの年史などを見ますと、昭和40年前後に1つのデザイン上のピークがあるように思います。ですから、第一段階終了という見方はあったのかも知れませんね。

事務局：昭和40年前後今日みる商品の原形とも言うべきものが確立されているように見受けられます。

たとえば、昭和39年に選定された(株)日立製作所の蛍光灯スタンド [ムーンライト506]。これは今日でも販売されていますが、おそらく30年代唯一のロングライフ家電商品ではないでしょうか。

この時代（昭和45年前後）のデザインについて少し詳しくお聞きしたいと思います。まず、[嵯峨]、[高尾] などといった日本調ネーミング、日本調デザインのTV、オーディオがこの時期に選定されていますが……。

西沢：昭和30年代のインダストリアル・デザインの課題は、欧米で開発された商品、技術をいかに日本化するか、日本人の生活に合致したものにすることにあったと思います。日本調ネーミングの商品について、これは確かテレビの方が早かったと記憶しています。

テレビのデザインの方向には、家具的なものにするか、機器的なものにするか2つの基本的方向が考えられるわけです。

家具的にとらえれば、日本の住宅様式に共通する日本的コードでかたちの統一を図った方が消費者にとっては理解しやすい。

そこで、日本的なもの、建具的直線構成を造形に生かしてまとめてみよう、というのが、こうした「日本調」デザインのテーマであったのではなかったかと思えます。ところが、住宅様式、特に畳が変わってしまう。

この結果、この様式はなくなってしまうわけですが、機器の日本化への積極的な取り組みとみるべきでしょう。

日本化の表われは、昭和40年度選定の松下電器産業株式会社の電気掃除機にみることができます。

シリンダタイプという技術形式も、少数の例外をのぞけば日本独特のものですが、スタイリング面ではアメリカのアートセンターの手法に立脚しながらも、日本家庭の事情に合致した細かな工夫をつみかさねていく。生産性の良さと使いやすさをバランスよく集約させていくという日本的デザインの1つの完成をみることができると思えます。

佐野：昭和40年代とは、インダストリアル・デザインだけでなく、グラフィックと言うより、商品をめぐるコミュニケーション活動全体が大衆の生活の中に浸透していった時代です。この時代、特に「キャンペーン」という言葉がよく用いられるようになりました。TV、新聞、雑誌等のメディアをミックスした「キャンペーン」を展開しニーズのビジュアライズを行い、市場に商品が表われ、消費者もそれを購入することによって完結させるというマーケティング理論が実践され、軌道に乗りはじめた時代でもありました。

つまり、商品のつくり方、売り方、コミュニケーションのしかたが、連続した手法として展開されはじめた時期でしょう。

田中：商品のかたち化についてもこの時期に大まかの方向が決まってきますね。簡単に言えば、技術を生活に近づけていくと言うか、技術の進化をビジュアライズする方向で、モノのかたちを決めていけばいい、ということにデザイナーが気づきはじめたのだと思えます。

私は当時、カメラ関係の企業にいまして、私のデザインしたものも、Gマークに選定されているわけですが、この時代のデザインの課題は技術の進展をどうアピールするかにあったと思えます。

1ミリ、2ミリにしのぎを削っていく。つまり、「ここまで小さくコンパクトにできた」というところに、技術的進展を言うより社会の発展と言いかえて良いかもしれませんが、それを表わしていくわけです。

作り手側は、商品のかたちに「こう使ってほしい」というメッセージを込めます。また、ある意味で、消費者も自分のメッセージとして、商品を購入するわけです。ここに商品のデザインの醍醐味があるわけですが、先ほど言いましたように、技術の進化をみせるという方向が、当時の消費者と一番コミュニケートしやすい、ということに気付いた。となれば、どうかたち化すれば良いかの方向が決まりますから、後は一群となります。

事務局：大量生産、大量販売時代の大量デザイン手法が生まれた、というわけですね。

西沢：小さなものに意味、価値を見い出していく。ちょっと前に言われていた、「軽薄短小」のはしりみたいな現象ですが、トランジスタラジオが小型化してきたとなると、その方向を他の分野の開発にも応用してしまう。このあたりに日本的な不思議さがあります。

「スモール・バット・パワフル」これはわかりやすい。目標が立てやすく、デザインの意図をエンジニアや経営者に説明しやすいわけです。一寸法師のおとぎ話は、日本

人ならだれでも知っていますからね。

## 転機の時代

事務局：昭和40年代は、Gマーク制度にとっても順調な時代と言えるのかも知れません。

毎年2,000点から3,000点の商品が申請され、350点程度の商品が選定される。数字的にみても平均している時代ですね。

西沢：選定商品をみながら代表的な事例をあげてみましょう。

たとえば、昭和42年度に選定されている(株)岡村製作所のユニット棚、これは、システムと言う概念が具体的な商品となって表われた最初の事例かと思えます。

それから、翌昭和43年度の時計ラジオ、これは、複合化商品のはしりとも言えます。しかし、生活の側から言えば、時計とラジオを組み合わせ、トータルな情報機器として身近におく、という発想は自然に生まれていきます。つまり、作り手側に生活のしゝかたが次第にみえはじめた。先ほどのシステム化にしてもまた複合化にしても、生活のしゝかたを見ることによってかゝちの組み合わせが始まったと言えるようです。

また、昭和40年代の終り、昭和49年にはぺんてる株式会社の水性ボールペンと林刃物株式会社の事務鋏が選定されています。

昭和30年代はインダストリアル・デザインといっても自動車、家電製品などごく一部に限られていた。それが40年代に入り、日用品など身近な分野へ拡大していった。産業別（と言っても消費財にまだ限られていますが）のデザインレベルがそろってきた。企業規模的にみても、デザインが大企業だけのものではなくなっていったと言えましょう。

田中：日本のデザイナーが、腰をすえはじめたという感じです。生活がみえるようになり、どの生活分野でも日本的なモノのあり方にもとづくスタンダードを作りあげていく力がそなわってきたわけですね。

昭和50年代に入ると、デザイナーがすっかり自信をもって仕事をできるようになる。マーケティング等の手法も、その自信を確認するための手法という受け止められ方をするようになります。

そうした新しい時代の代表例が、昭和56年度部門別大賞のモニター〔プロフィール〕、あるいは昭和59年度グッドデザイン大賞の乗用車〔シビック〕ということになります。両方とも、ハードウェアの本質とは何か、というところから開発をスタートさせています。

西沢：マーケットニーズという次元を越え、モノのあり方に対する期待をもって商品がつくられた事例と言えますね。これがデザイン開発の新しいしゝかたに育っていく。

佐野：私は、ちょっと別の切り方をしてみましょう。この30年間に生み出された商品達を大きくファミリーの時代、パーソナル時代、それからと分けてみると、先ほどふれていた昭和40年頃がパーソナルな時代ちょうど幕明けということになります。『平凡パンチ』の創刊が昭和39年、ビートルズの来日が昭和41年。昭和40年代にソニーの代表的なラジオ〔ソリッドステート11〕が選定されていますが、若者の時代はまず音（サウンド）から始まり、映像へと広がっていきましたね。1960年代後半からポスター、TV、雑誌等のカラー化が始まり、「イメージの時代」ということが言われはじめるようになる。

この時代あたりから、こと若者についてはGマークが立ちおくれ、ファミリー（当時

はまだTVはファミリーのものでしたから)ではGマークが先行するという図式ができあがったようです。

次は女の時代、主婦から女への時代です。これは1975年(昭和50年代)ぐらいから明確になるのですが、女性を使うものだけではなく、家庭用耐久消費財を含めて消費の主導権を女性が握っていくという時代です。

ファミリー、パーソナル、女とに区分したのも基本的な人間のあり方が変われば、またもののあり方が変わるということを書いたかったからです。

本当の意味で、女の時代に対応したハードウェアというのは、まだ登場していないわけですが、女が変わることによって家庭のあり方が変わる。ホーム(家庭)が新たなコンセプトのもとにシステム化されてくる時代がすぐ数年先に見えているように思います。ことによったら、キッチンがまったくないホームというのものもある。そうした変革期を今迎えつつあるように思います……。

## 新たな課題

事務局：デザインが今、転換期を迎えつつあることは、Gマークの審査を通じても実感できるようです。

先ほど話題となった基本的な人間関係の再編成、あるいは産業の国際化、ソフト化といった問題にデザインがどう係るかが今、問われていると言えるようですが……。

西沢：今日、年表をみてあらためて気づいたことですが、初期の選定商品、たとえば東芝の電気がま(昭和32年度選定)やソニー株式会社のトランジスタラジオ(昭和33年度選定)には、インダストリアル・デザイナーがデザインで生活のあり様を変えるんだ、言葉を換えると生活を変える力がハードウェアに、そしてそのデザインにあるんだという意識が実証されているような気がしてならないんです。

生活のあり様をデザインで変える。これはアメリカからのスタディにはまったくなかったことですよ。

田中：当時は今でいうデザインやマーケティング等の方法も確立されていなかった時代ですから、デザインも新しいモノが登場してくる時の象徴性を導入するという程度であったかと思います。今日でいうソフト的なデザイン発想、すなわち生活のしかた自体の変化を想定ししかたを導くという考え方とはちょっと異なる。

ただ、日本のデザインの出発点で今日でいうソフト的なシーズを感じさせる事例に出会うことは事実ですね。

西沢：もう一つ気になるのは、白山陶器株式会社のしょうゆ差し(昭和36年度選定。現在も販売されている)。クラフトのインダストリー化というか、手で作るのではなく、機械で作ることの意味を問うこと。機械で作りながらそこに手を感じさせるという日本的造形処理があるわけですが、これも一つの原流となっていますね。

事務局：日本のインダストリアル・デザインは、先ほど田中先生がおっしゃったソフト化思考という点で、今日欧米のそれとは様相を大きく異にしてきたようです。国際的にみて大きな可能性がそこに感じられるわけですが、Gマークの選定の初期に、今日花開きつつあるシーズがビルトインされているという見方は大変興味深いと思います。問題は、日本のデザインが今日まで蓄積した力を今後どう発揮していくかですが……。

西沢：「デザイナーはニーズではなしに、生活の本質を理解するのだ。」という言い方があります。



本質を理解するには、統計的数字を重ねても見えてはこない。1つのセンス、センスをもって本質を把握できる人間が本当の意味でデザイナーなのだと思います。

なぜ、こんなことを言うかという、国際化という新たな環境の中で、モノを作っていくことの意味を日本人がどう理解していくかが問題となるからです。

日本の場合、私的な部分では充分発達していますが、公的な部分、環境的な側面が大きく欠落している。

これはある意味で生活の本質がまだ見えきっていないことを意味するのではないかと思います。

田中：人と物、人と企業、企業と企業、あるいは異文化相互、俗な言い方をすれば、すべて「おつき合いのしかた」が問題となります。この「つき合い方」を通じて生活の本質を見出ししていくことが、今後デザインに課せられる基本的仕事となるように思いますが。

佐野：いまお話しにありましたあるモノとあるモノとの「と」（関係性）の問題ですね。もののあり方自体が変わっていく。個別に存在するのではなく、システムとして、それも従来の並列的なシステムではなく、インテグレーションされて存在するようになる。これからはいわゆるニューサイエンスの人達が言っているように、統合する方向へ向かうだろう。これがもしまちがいないとすればますます「と」が問題になります。

デザインは「見えないものを見るようにかたちづくることだ」と言われますが、かたち化には、意図、目的性、論理性が問われます。この意図等が「と」という動的な関係をもってとらえていくことがデザインに大きな影響を与えていくことと思います。

田中：むしろ「と」自体が動的構築することがデザインだと言った方が明解になるかも知れません。

（取材：日本産業デザイン振興会 DESIGN NEWS 編集担当）

（注）グッドデザイン展24年、Gマーク制度30年経過した今日、デザインについてのコンセプトや、課題、責任等の問題も新たな次元に向けて問い直されつつあります。その意味で本誌の巻末に加えさせていただきました。

## 昭和32年

●Gマーク選定制度創設、事務局・特許庁意匠課、意匠奨励審議会グッドデザイン分科会で選定審査

●ICSID発足、JIDA加盟  
JIDA等5団体、日本デザイン協議会設立

日本商工会議所Gマーク業務参加  
日本繊維意匠センター発足

(昭和30年)

日本陶磁器輸出組合(昭和31年)

(現・日本陶磁器意匠センター)

日本室内設計家協会(現JID)設立

藤山愛一郎外相訪英の際、イミテ

ーション問題で記者団の質問を受ける

「年鑑広告美術」創刊

ADC賞制定

H・リード「インダストリアル・デザイン」発行

●5,000円札、100円硬貨発行

東海村の原子炉点火

白黒テレビ契約50万台突破

カラーテレビ実験放送

マンモスタンカー受注増加

たばこ自動販売機登場

アロハシャツ

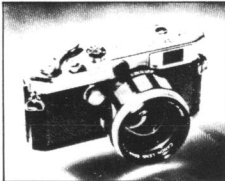
化繊の着物出現

1ページ大新聞広告登場

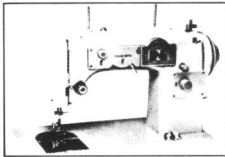
2DK(住宅公団発足)

デラックス、ストレス、パートタ

イマー



キヤノン L-1 キヤノンカメラ(株)



フルオートジグザグミンシオンF2-101 / 福助株式会社

## 昭和33年

●通商産業省通商局振興部デザイン課設置

意匠奨励審議会、特許庁より通商産業省デザイン課へ移管

「グッドデザインとGマーク展」

(銀座・松屋)

●日本貿易振興会(JETRO)発足、デザイン課設置

「デザインを護る展示会」開催 主催通商産業省・特許庁

東京コピーライターズクラブ設立

デパート、グッドデザインコーナーを相次いで設置

意匠法大幅改正

●ナベ底景気

10,000円札発行

白黒テレビ契約100万台突破

ラジオ普及率ピーク

トランジスタラジオ輸出盛ん

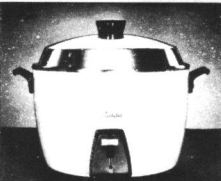
8mmカメラブーム

特急こだま号運転

東京タワー完成

野球盤登場

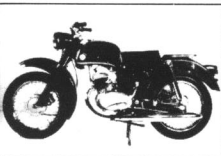
フラフープ流行、団地族



電気釜 RC-10K 東京芝浦電気(株)



トランジスタラジオ TR-610/ソニー(株)



オートバイ YA1125/ヤマハ発動機(株)

## 昭和34年

●Gマーク、業界団体経由による勧誘制度実施

意匠奨励審議会を「デザイン奨励審議会」と改める

JETRO・日本手工芸品対米輸出推進計画開始

●輸出デザイン法制定

日本機械デザインセンター発足、

日本輸出雑貨センター(現・生活用品振興センター)発足

第1回ICSID会議

クラフトセンタージャパン発足

「グラフィックデザイン」創刊

「デザイン」創刊

千葉大学工業意匠科新設

マーケットリサーチ手法のデザインへの導入活発化

●天の岩戸景気

皇太子殿下御成婚

耐久消費財の普及拡大

メートル法制定

トランジスタテレビ登場

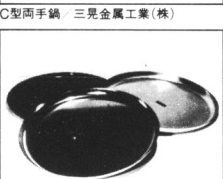
ベッドタウン建設盛ん

週刊誌多種発刊

カミナリ族、ながら族



C型両手鍋 三晃金属工業(株)



丸盆 エレガント/日興工業(株)



B.G.ランチボックス ミリオン型/日興工業(株)

## 昭和35年

●世界デザイン会議(World Design Congress)東京で開催

JETRO・ジャパンデザインハウス開館

大阪デザインハウス開館

日本パッケージデザイン協会設立

第1回機械デザインコンクール開催

日本デザイン学生連合結成

「デザイン手帖」創刊

「クラフト」創刊

●消費ブーム・黄金の60年代

国民所得倍増計画

白黒テレビ契約500万台突破

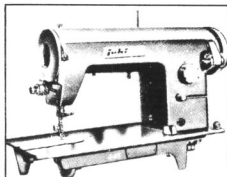
三種の神器(冷蔵庫、洗濯機、掃除機)

男性用化粧品登場

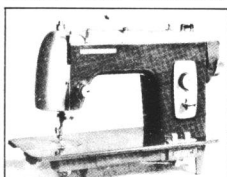
プレハブ住宅発表

ダッコチャンプーム

インスタント時代



家庭用ミシンHW-62 東京重機工業(株)



家庭用ミシン ロードリー-S/リッカーミシン(株)

## 昭和36年

●Gマーク商品選定審査をデザイン奨励審議会・分科会より、通商産業省デザイン課委嘱の審査委員会に移す

デザイン奨励審議会、デザイン振興のあるべき姿と今後の施策について答申 デザイン振興の中心的機関の設立を提言

●「木工界」誌、「室内」と改称

●大衆車発表

EEカメラ登場

洗濯機普及率50%を超える

シームレスストックキング

プラスチック製品増加

ポリバケツの需要本格化

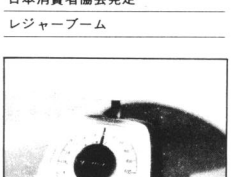
オートバイの輸出急増し始める

建売り住宅ブーム

「ミセス」創刊

日本消費者協会発足

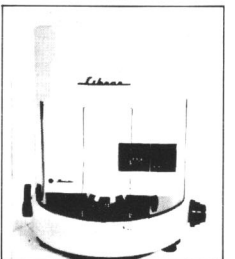
レジャーブーム



キッチンスケール 大和製衡(株)



醬油注/白山陶器(株)



直示天びん L型/ (株)島津製作所

## 昭和37年

●デザイン振興協議会(JETRO、日商、4  
意匠センター)発足

●JIDA「工業デザインのもつ社会性の再確  
認討論会」をおこなう

家庭用品品質表示法公布

巡航見本市船「さくら丸」進水

第1回小書ファニチャーデザインコンペ

●貿易自由化率88%に

NHK総合TV全国放送開始

テレビ、普及率48.5%に

国産初の大型電子計算機開発

国電路線別カラー化はじまる

ペーパーボックス・新書版の刊行

スーパーマーケット発達

流通革命「問屋無用論」

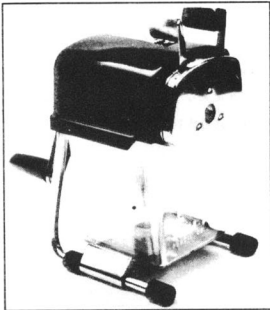
消費者問題高まる

東京都1,000万都市

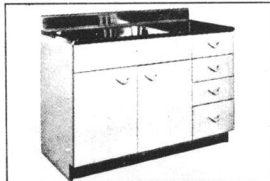
交通事故死亡1日35人に

ムウムウ、ツイスト、ボサノバ

無責任時代、消費者は王様



シャープナー K-430/三菱鉛筆(株)



流し台 DP-40-22/サンウェーブ工業(株)

## 昭和38年

●第1回日本輸出デザイン展開催

(主催:デザイン振興協議会)

東京

Gマーク申請制度採用、家具部門新設

4意匠センター(日本繊維意匠センター/

日本陶磁器意匠センター、日本輸出雑貨

センター、日本機械デザインセンター)、

Gマーク選定業務に協力開始

ジャパンデザインハウス「Gマーク商品展」

開催

●日本ディスプレイデザイン協会発足

国際デザインコミッティー、日本デザイ

ンコミッティーと改称

●経済成長ムード、貿易自由化進む

「鉄腕アトム」TV放送開始

歩道橋登場・新道路標識

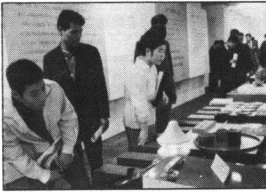
自動販売機本格的に

セパレート水着登場

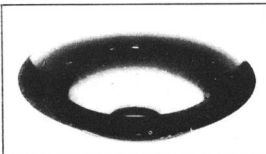
小中学校ミルク給食開始

東京の電話100万台突破

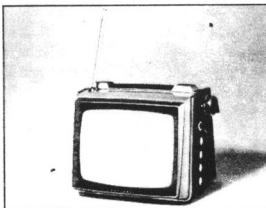
レジャー、バカンス高級化



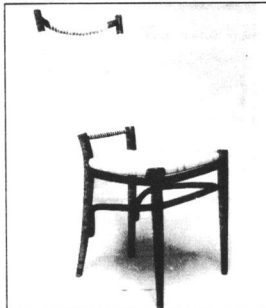
東京会場



灰皿 90G-SM 佐々木硝子(株)



トランジスタテレビ P9-21R/松下電器産業(株)



食堂椅子 #25/秋田木工(株)

## 昭和39年

●第2回日本輸出デザイン展開催

東京、名古屋

Gマーク商品総集発行(1957~1963年

選定商品収録、翌年より毎年商品集発行)

デザイン奨励審議会中間答申「総合的デ

ザイン振興機関の設立について」発表

●第1回世界クラフト会議(WCC)

デザインコミッティー、銀座松屋にデザ

インギャラリー開設

「第1回パッケージデザイン展」(JPDA)

●オリンピック東京大会

東海道新幹線スタート

名神高速道路一部開通

家電の新製品、50種に及ぶ

商品のネーミング始まる

冷蔵庫(100ℓが中心)、普及率50%へ

デパート、外国デザイナーと提携開始

海外旅行自由化

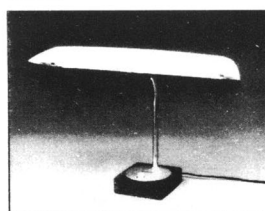
インスタント食品普及

「平凡パンチ」創刊

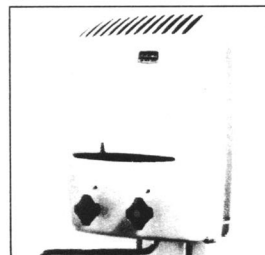
IVYルック、みゆき族、ノースリーブ



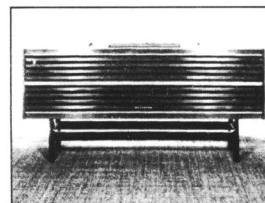
名古屋会場



蛍光灯スタンド 506 日立家電販売(株)



ガス瞬間湯沸器 PI-20 (株)パロマ



モジュラスtereo SE-2000 松下電器産業(株)

## 昭和40年

●第3回日本輸出デザイン展開催

東京、名古屋

Gマーク、繊維部門新設

通商産業省デザイン課の主催する「デザ

イン開発指導連絡協議会」発足

●関西デザイン会議 65開催

日本サインデザイナー協会発足

「SD」創刊

「人間工学」創刊

現代イタリアデザイン展(銀座・松屋)

●物価問題深刻化

大衆乗用車時代

国鉄「みどりの窓口」

3C時代(カー、クーラー、カラーテレビ)

2ドア冷凍冷蔵庫、次第に主流へ

プレハブ住宅量産化体制確立

国産旅客機YS-11

ICの本格的生産開始、コンピュータ普及へ

日曜日夕刊廃止

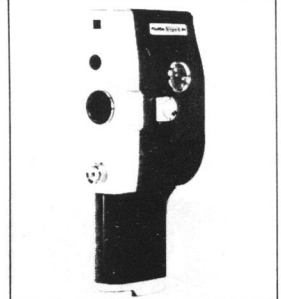
テレビのニュースショー続々登場

大学生100万人突破

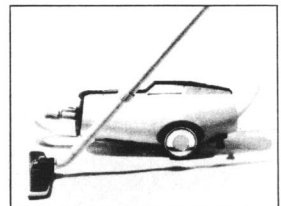
エレキピアノ、出かせぎ



トランジスタラジオ TFM-110 ソニー(株)



8mmシネカメラ P-1 富士写真フィルム(株)



電気掃除機 MC-1000C 松下電器産業(株)

## 昭和41年

●第4回日本輸出デザイン展（Gマーク商品展示開始）

東京、名古屋  
同展に皇太子、同妃両殿下来臨  
（第1回目東京展）

通商産業省、検査課とデザイン課を統合、貿易振興局検査デザイン課へ改組

●愛知県立芸大、東京造形大創立

大学にデザイン科の設置あいつぐ  
第1回クラフトセンタージャパン賞  
JIDA第1回日本インダストリアルデザイン会議開催

第1回大阪デザイン振興月間

「ブラウン社デザインポリシー」巡回展  
「デザイン批評」創刊  
学童用家具のJIS制定

●人口億人突破

本格的な大衆車時代、マイカー元年  
キッチンユニット全盛  
全自動洗濯機普及が始まる  
カセットテープ国内発売  
中国文化大革命  
ビートルズ来日  
ウルトラマン



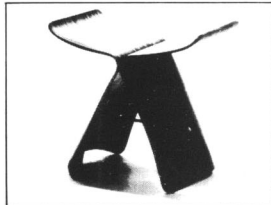
東京会場



35mm1眼レフ ペンタックスSP 旭光学工業(株)



35mm1眼レフ ニコンF/日本光学工業(株)



小さい/(株)天童木工製作所

## 昭和42年

●第5回日本輸出デザイン展開催

東京、名古屋、大阪  
Gマーク品質検査開始  
通商産業省、第1回海外意匠商標調査団を東南アジアへ派遣

●ジャパンデザインハウス、「自動車のデザイン」「衛生設備のデザイン」など、展示会を開催

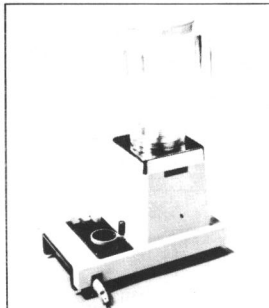
「グラフィックアートUSA」展（国立近代美術館）

●大型消費時代

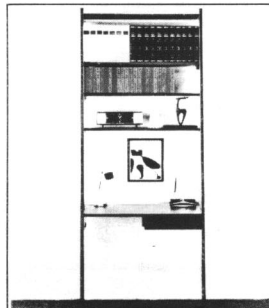
クレジット販売好調  
資本自由化による産業の国際化はじまる  
テレビ契約2000万台突破  
家電製品の普及率、洗濯機69%、扇風機65%、電気こたつ62%、冷蔵庫62%、掃除機40%、ステレオ20%と上昇  
自動車生産台数世界第1位  
大学数800を越える  
マイカー族・原宿族  
ゴーゴー、ミニスカート、グループサウンズ



大阪会場



ミキサー JM-870/三菱電機(株)



棚 8831ZZA/(株)岡村製作所

## 昭和43年

●第6回日本輸出デザイン展開催

東京、名古屋、大阪  
日本商工会議所、Gマーク認知度調査、認知率64%  
デザイン奨励審議会懇話会が開かれ、「日本産業デザイン振興会設立準備委員会」を設ける

●九州芸術工科大学設立

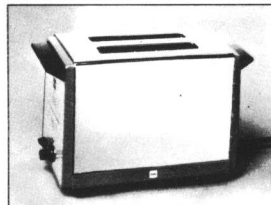
「日本のポスター100年」展  
ヤマギワ国際照明器具コンペ'68  
第1回京都デザイン会議

JID創立10周年、

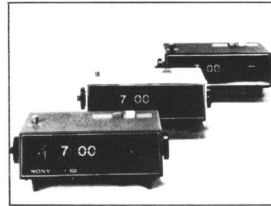
インテリアデザイン会議'68  
「アールヌーボー展」(西武)

●明治100年

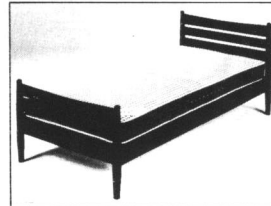
電話加入者1,000万台突破  
全テレビ局カラー化  
プラスチック生産量、コンピュータ保有台数、世界第2位へ  
スクーター生産中止  
ALC(軽量発泡コンクリート)需要増大  
工業用ロボット登場  
大学紛争多発、公害問題高まる  
Yシャツカラー化  
サイケデリック、ヒッピー



全自動式トースター HTT-600/東京芝浦電気(株)



時計ラジオ 8FC-59/ソニー(株)



ベッド CAZ1984001/西川産業(株)

## 昭和44年

●第7回日本輸出デザイン展開催

(主催：日本輸出デザイン展)  
東京、大阪、名古屋  
同展の主催者に日本産業デザイン振興会加わる

デザイン奨励審議会、「総合的デザイン振興機関の設立について」決議、通商産業大臣へ要望書を提出

(財)日本産業デザイン振興会(JIDPO)設立、Gマーク商品選定協力事業等を開始

●産業工芸試験所を「製品科学研究所」と改組し再出発

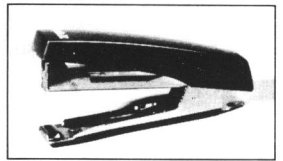
通商産業省「新通商政策の基本的方向」発表、生産第一主義、輸出貿易重点主義から国民生活の質的充実へ大きく転換  
日宣美審査会、粉砕共闘の学生により実力阻止さる

「近代デザインの展望展」(京都国立近代美術館)

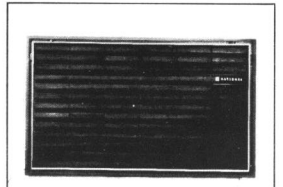
「エレクトロマジカ'69国際サイテックアート展」(ソニービル)

●アポロ11号、人類初の月面着陸

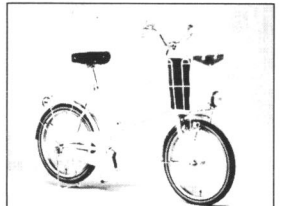
カラーテレビ急増  
第1次マンションブーム  
プラスチック公害、ビニール公害  
現金自動支払機登場  
シンクタンク誕生



ステープラー HD-10D/マックス(株)



電気冷蔵庫 CW-220M 松下電器産業(株)



自転車 M-20 光風自転車(株)

## 昭和45年

●第8回日本輸出デザイン展開催  
東京、名古屋、大阪  
同展に皇太子殿下ご来臨  
(第2回目東京展)  
Gマーク使用管理業務日本産業デザイン  
振興会に移管(日本商工会議所より)  
日本産業デザイン振興会の常設展示場  
開設

●万国博覧会EXPO'70  
自動車メーカー各社CADシステム導入へ  
国際未来学会開催(京都)  
日宣美解散声明  
新交通システムの研究活発化  
国民生活センター設立  
日本住宅設備システム協会設立  
「産業デザイン情報(現Design News)」  
創刊(JIDPO)

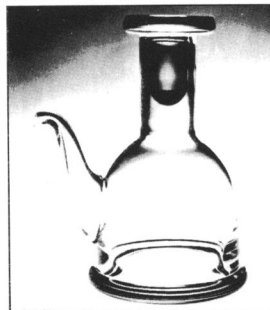
●経済企画庁、'69年度GNPは世界第2位  
と発表  
国民の90%が中流意識  
キッチンユニット、ウインドファン、電  
子ジャー、4チャンネルステレオ、電子水  
晶時計など続々新発売  
歩行者天国  
ジャンボ航空機時代  
バンティーストッキング  
ウーマンリブ、ビューティフル、ファッ  
ション個性化



東京会場



湯わかし/クックベッセル(株)



しょうゆ差し S2015/(株)保谷硝子

## 昭和46年

●第9回日本輸出デザイン展開催  
(主催:日本輸出デザイン展協議会)  
東京、大阪、名古屋、広島、北九州  
同展の主催者から日本貿易振興会退く  
Gマーク、住宅設備部門新設  
デザイン奨励審議会「70年代のデザイン  
振興政策は如何にあるべきか」を諮問。  
「73デザイナー」懇話会設立  
日本産業デザイン振興会、日本貿易振興  
会で行なわれていたデザイン振興事業を  
継承、ICSID加盟

●「機械工業デザイン賞」創設(日刊工業  
新聞社)  
大阪デザインハウス、「大阪デザインセン  
ター」と改称  
APO「アジア・デザインシンポジウム」  
(参加8カ国)  
「バウハウス50年展」(東京国立近代美術館)  
「トーネット展」(小田急ハルク)  
「D&I」誌創刊  
デコマス委員会報「DECOMAS」発行

●カラーTV登録台数1,000万人突破  
新宿副都心高層化すすむ  
電卓出回る  
ディスカバージャパン最高潮  
脱サラ、長髪、アンチーク、バイコロジ-



電子レンジ ER-605A/東京芝浦電気(株)



テープレコーダー CF-1400/ソニー(株)



ガス炊飯器 PR-1/(株)パロマ

## 昭和47年

●第10回日本グッドデザイン展開催  
(旧・日本輸出デザイン展)  
東京、札幌、名古屋、大阪、広島、福岡  
デザイン奨励審議会、中間答申「70年代  
のデザイン振興政策のあり方」発表  
「73デザイナー」運営委員会設立  
世界インダストリアルデザイン会議事務  
局発足

●「日本の伝統とデザイン展」(JIDPO)  
「コンピュータアート展」  
「日本産業デザイン展」(香港)  
家具の歴史館開館  
デザインギャラリー100回記念展開催  
日本産業デザイン振興会、「デザインマネ  
ージメントセミナー」「消費者デザインセ  
ミナー」開始  
日本生活学会発足

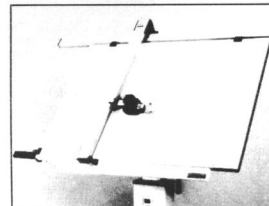
●日本列島改造論  
余暇開発時代・民俗ブーム  
ファーストフード登場  
Tシャツ、ジーンズ、若者のファッション  
として定着  
カルダン、ディオール等海外ブランド急増



ターンテーブル DP-5000/日本コロムビア(株)



携帯発電機 E-300/本田技研工業(株)



製図機械 ML-0912/武藤工業(株)

## 昭和48年

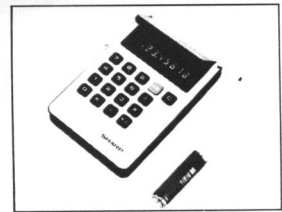
●デザイナー展覧会開催  
名古屋、東京、大阪、札幌、仙台、岡山、  
北九州、高松  
'73デザイナー  
第8回ICSID総会(東京)  
「ICSID '73 KYOTO」開催

●「世界サイクルデザインコンペティショ  
ン」(自転車産業振興協会、JIDPO)  
「国際陶磁器デザインコンペ」(日本陶磁  
器意匠センター、JIDPO)  
通商産業省住宅産業課内に「インテリア  
産業振興対策委員会」設置  
「デザインフォーラム'73」(日本デザ  
インコミッティー)  
「73日本クラフトフェア」(JCDA)  
製品安全協会発足  
東芝意匠部創立20周年デザイン展  
第1回アメリカ連邦デザイン会議

●石油危機、物価高騰  
ドライバー-3,000万人突破  
週休2日制次第に定着  
自然指向強まる



大阪会場



卓上計算機 EL-805/シャープ(株)



35mm1眼レフ OM-1/オリンパス光学工業(株)



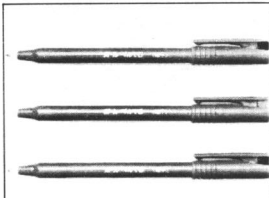
汎用イス マルチ/愛知(株)

## 昭和49年

- 第12回日本グッドデザイン展開催  
名古屋、札幌、福岡、大阪、金沢、広島、東京  
同展に皇太子、同妃両殿下ご来臨  
(第3回目東京展)  
通商産業省、日本産業デザイン振興会  
へGマーク商品選定事業を業務委託  
Gマーク「試買テスト」開始
- 第1回国井喜太郎賞  
日本デザイン学会、日本学術会議へ正式  
登録認定  
伝統的工芸品産業振興法施行  
通商産業省「インテリア産業の現状」発表  
「日本産業デザイン展」(ロンドン)  
JIDPO、国際協力事業団委託事業として  
海外デザイナー研修事業を開始  
SGマーク、BLマーク制定  
筑波大学設置  
「工芸ニュース」休刊  
ヴィクター・ババネック「生きのびるため  
のデザイン」発行
- 狂乱物価、GNP戦後初めてマイナス成長、  
使いすて時代終幕、節約ムード高まる  
省エネ、省資源を背景に洗濯機等家電製  
品、薄型軽量コンパクト化へ  
ラジカセ主流に  
液晶ウオッチ市販開始  
高校進学率90%突破  
DIYブーム、ニューファミリー  
見るレジャーからするレジャーへ



金沢会場



水性ボールペン B-100/べんてる(株)



アイスベール H57001/小林工業(株)



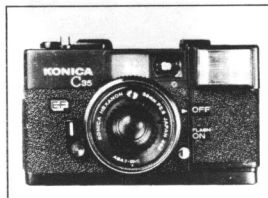
事務鋏 185/林刀物(株)

## 昭和50年

- 第13回日本グッドデザイン展開催  
東京、岡山、大阪、名古屋、宮崎  
日本機械デザインセンター、Gマーク  
協力選定業務(機器部門)を日本産業デザ  
イン振興会に移管
- JIDPO、地方産業デザイン開発推進事  
業開始  
伝統的工芸品産業振興協会設立  
デザインプロポジション展「高密度社会  
へのデザインの役割(JIDA、JIDPO)  
「現代衣服の源流展」(京都国立近代美術館)  
「デザインエイジ」創刊(JIDPO)  
「アール・ヌーボー、アール・デコ展」  
(新宿・伊勢丹)  
「豊口克平とデザイン界の半世紀」展  
(新宿・小田急ハルク)
- 新幹線博多まで開通  
沖縄海洋博開催  
電話加入者3,000万人突破  
実働コンピュータ3万台突破  
ステレオ、テープレコーダ、ともに普及  
率50%を超える  
核家族化、手作り指向、本物志向



宮崎会場



35mmカメラ C35-EF/小西六写真工業(株)



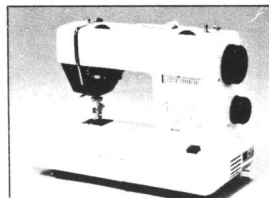
ケトル 2ℓ/東新プレス工業(株)



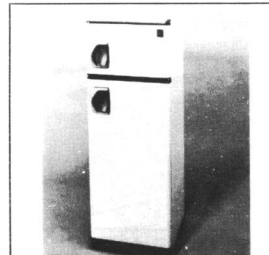
スポーツ自転車 ロードマンR-5  
ブリヂストンサイクル(株)

## 昭和51年

- 第14回日本グッドデザイン展開催  
東京、大阪、甲府、名古屋  
通商産業省デザイン課、デザイン関連  
団体懇話会を招集(13団体)
- 行政管理庁、日本標準産業分類に「デ  
ザイン業」新設  
産業構造審議会、生活用品部会「50年代  
の生活用品産業のビジョン」発表  
東京デザイナーズスペース、各ジャンルの  
デザイナー92名により発足  
毎日産業デザイン賞、「毎日デザイン賞」  
と名称変更。第1回受賞三宅一生  
「町並み文化財」7カ所を初指定  
第9回ICSID総会にて、栄久庵JIDA理事  
長、会長へ選出さる  
商業施設技術団体連合会設立(JIDなど9  
団体加盟)  
「タクシプロジェクト展」(ニューヨー  
ク近代美術館)  
第1回吉田五十八賞  
「日経アーキテクチュア」創刊
- 省エネ、低成長時代  
マイカー1,700万台突破  
キッチンのインテリア化進行  
オーディオブーム



家庭用ミシン ZZ3-B750/プラザ工業(株)



冷蔵庫 SR-625F/三洋電機(株)



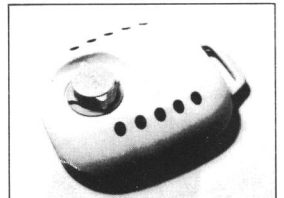
革靴 フィックスルーバー5407 大塚製靴(株)

## 昭和52年

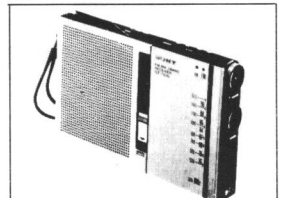
- 第15回日本グッドデザイン展開催  
(Gマーク商品選定制度20周年記念展)  
東京、神戸、大分、金沢、大阪、名古屋、  
広島  
同展の主催者に日本住宅設備システム協  
会加わる  
Gマーク商品選定制度20周年、新Gマー  
ク証紙発行  
20周年を記念し「デザイン振興月間」を定め、  
デザインキャンペーンを総合的に展開  
Gマーク20周年記念通商産業大臣賞(ソニ  
ーコンバクトラジオICF-7500)等を授与  
デザインニュース誌等記念号発行
- 「第1回NAAC展」(日本広告技術協議会)  
「東京国立近代美術館工芸館」開館  
「国立民族学博物館」開館  
「国立国際美術館」開館  
「国立ポンピドー芸術文化センター開館」  
(パリ)  
「三宅一生・一枚の布」(西武美術館)  
「長野デザイン会議」「京都デザイン展」  
「石川県デザイン展」等各地域でのデザイ  
ン活動活発となる
- 円高ドル安時代  
戦後生まれが過半数に  
ふとん乾燥機発売  
キッチン用品カラーコーディネート化



東京会場



ベビー湯たんぽ コンビ(株)



ラジオ ICF-7500 ソニー(株)



## 昭和53年

### ●第16回日本グッドデザイン展開催

東京、金沢、名古屋、大阪

日本住宅設備システム協会、Gマーク業務協力開始

Gマーク消費者認識度調査、認知率66%に  
通商産業省検査デザイン課「デザインによる知識集約化のための調査報告」発表

### ●第8回世界クラフト会議(WCC)京都大会開催

日本グラフィックデザイナー協会設立  
日本テキスタイルデザイナー協会第1回応募展

「78日本ガラス展」(日本ガラス工芸協会)

「空間の美=美は生きている展」(栃木県立美術館)

「78国際コンピュータアート展」(日本情報処理開発協会)

「日本の時空間一閃展」(パリ装飾美術館)

### ●不確実性の時代・価値観の多様化

マイコン利用機器増加

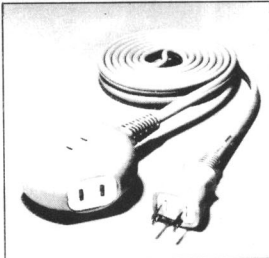
音声多重放送開始

システムキッチン時代へ

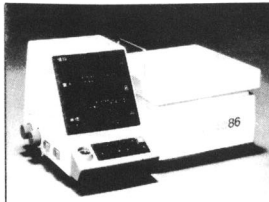
ノーブランド商品登場



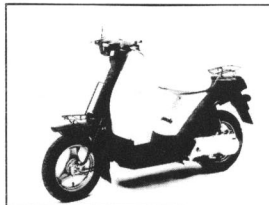
大阪会場



配線器具 WH2303YP/松下電工(株)



はかり デジタルスケール86/(株)石田衛器製作所



原動機付自転車 パッソーラSA50/  
ヤマハ発動機(株)

## 昭和54年

### ●第17回日本グッドデザイン展開催

東京、仙台、金沢、大阪、名古屋

第1回ICSIDアジア地域グループ会議  
(東京)

第29回アスペン国際デザイン会議「日本と日本人」をテーマに開催

デザイン団体協議会にJAGDA加盟

日本タイポグラフィ協会創立15周年を記念し「香港・日本デザイン展」開催

第1回ICSID京都賞・大阪南港ポータルタウンアメニティープランなど受賞  
避難誘導ピクトグラム一般公募(日本消防設備安全センター)

### ●ウサギ小屋、ワークホリックの日本人

第2次石油危機

東京サミット

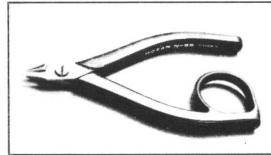
「ワークマン」発売

インペーター、カラオケ、ハマトラ、

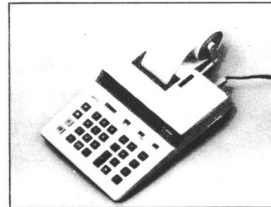
シングルライフ、ジョギング



大阪会場



精密ニッパー N-55/(株)宝山工具製作所



電子卓上計算機 P22-D/キヤノン(株)



飲食器 ロイヤルホワイトCTHK/  
(株)CBS・ソニーファミリークラブ

## 昭和55年

### ●第18回日本グッドデザイン展開催

東京、山形、金沢、名古屋、大阪

Gマーク商品選定、通商産業省貿易局長  
名から通商産業大臣名選定となる

「グッドデザイン大賞」「同部門別大賞」

「ロングライフ特別賞」を制定、大賞・松下電器産業フルオートマッチングプレーヤー「SL-10」

### ●「日本文化デザイン会議」発足 第1回

横浜会議テーマ「共生の時代-80年代をデザインする」

クラフトセンタージャパン創立20周年

第2回ICSIDアジア地域グループ会議

(キャンベラ)

「ジャパニスタイル展」(ロンドン)

日本記号学会発足

JIDPO・国際シンポジウム「企業経営における創造性と文化性」開催

JIDPO「80年代のデザインマネージメント」調査発表

JIDPO・国際交流センター設置

### ●第三の波、ソフトテクノロジー

自動車輸出596万台(6年連続世界第1位)

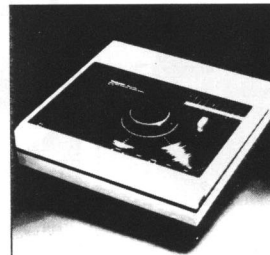
スモール・イズ・ビューティフル

竹の子族・クリスタル族

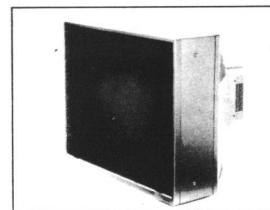
ルービックキューブ、デイベック、



東京会場



レコードプレーヤー SL-10/松下電器産業(株)



カラーモニターテレビ KX-20HF1/ソニー(株)

## 昭和56年

### ●第19回日本グッドデザイン展開催

東京、金沢、大阪

昭和56年度グッドデザイン大賞「オリンパスXA-2」

Gマーク企業の意識度調査・重視度は経営者91%、広告・販売部門89%、デザイン・設計・開発部門86%

Gマーク、第7回東京国際グッドリビングショー、通商産業省コーナーに出品

### ●(財)国際デザイン交流協会(大阪)発足

ヘルシキで「デザイン'81会議」開催

世界初のICSID・ICOGRADA・IFI合同会議

第3回ICSIDアジア地域グループ会議

(ソウル)

日本生活学会主催シンポジウム「生活のデザイン-日常性からの発想」

「AXIS」オープン

都バスの色彩計画を期に「公共の色彩を考える会」発足

### ●日米自動車庫構

ロボット市場急成長

コンピュータ身近に、OA時代

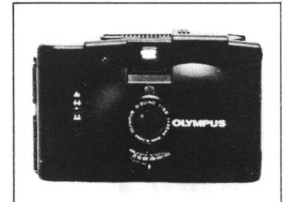
神戸ポートピア'81

サイエンスブーム

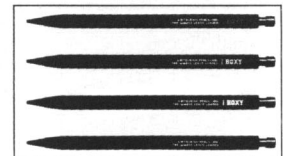
フィットネス、シェイプアップ



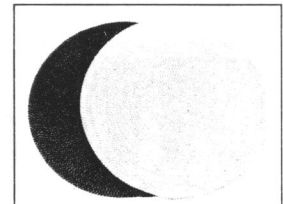
大阪会場



35mmカメラ XA-2/オリンパス光学工業(株)



シャープペンシル M5-100/三菱鉛筆(株)



マット BY-10/板東輸出数物(株)

## 昭和57年

●第20回日本グッドデザイン展開催 (Gマーク商品選定制度25周年記念展)

東京、金沢、大阪

同展に皇太子、同妃両殿下ご来臨 (第5回目東京展)

Gマーク使用規則改正

グッドデザイン大賞 [ビクターシティジャック] 日本ビクター(株)

●日本デザインコミッティ創立30周年「Design 19」展開催

JIDA創立30周年「日本のインダストリアルデザイン50年代と80年代」展開催

板橋区立美術館「20世紀末美術展」

「ドムス・アカデミー開校(ミラノ)」

「ポライアハウス・プロジェクト」活動開始、第1回企画展「ART AND INDUSTRY」開催(ロンドン)

デンマーク・デザイン・カウンスル「Design: the problem comes first」発刊

●テレホンカード登場

東北、上越新幹線開通

ブリッ子

逆噴射

「チョコQ」「イクシーズ」ヒット

## 昭和58年

●第21回日本グッドデザイン展開催 東京、金沢、大阪

審査部門を7部門から8部門にグッドデザイン大賞 [キヤノン T50] キヤノン株式会社

●第1回国際デザインコンペ、チャールズ・L・オーエン「未来の家」にグランプリ

JIDA「日本のインダストリアルデザイン・精緻の構造」発刊

ICSIDミラノ会議「From spoon to town, 30 years later」開催

「剣持勇」「柳宗理」「小杉二郎」の回顧展、作品集相次いで開催・発行

シド・ミードの世界展(ラフォーレ) ルイジ・コラーニの世界展(高島屋)

アメリカIDSA「Innovation」誌発刊

スリランカ・デザインセンター設立

西ドイツ「第1回VDID賞」身障者のためのデザイン」発表

JIDPO「消費者のためのデザイン評価基準」調査

●東京ディズニーランド開園

カラオケ市場活性化

愛人バンク

ヘタウマ

女子大生ブーム

## 昭和59年

●第22回日本グッドデザイン展開催 東京、金沢、大阪

対象商品部門を13部門へと拡大 外国商品の申請手続を簡素化

グッドデザイン外国商品賞、グッドデザイン中小企業商品賞創設

調査勧誘制度を拡充

グッドデザイン大賞 [ホンダシビック3ドアハッチバック25i] 本田技研工業株式会社

●石川県デザインセンターオープン

東京デザイナーズ・スペース「再体験60年代」展開催

米国芸術基金とミシガン大学「The Competitive Edge」開始

第1回「エルゴ・デザイン」シンポジウム開催(スイス・モントルー)

インテリア・コーディネーター資格試験開始

イリノイ大学「Design Issue」発刊

マスクワ「JAPAN DESIGN—伝統と現代」展開催

●ポストモダンブーム

エリマキトカゲ大流行

ニューアカ

カフェバーブーム

「生とっくり」「どんびえ」ヒット

## 昭和60年

●第23回日本グッドデザイン展開催 東京、大阪、金沢

グッドデザイン福祉商品賞創設

Gマーク使用方法改善

グッドデザイン選定商品特別展開始 (六本木 AXIS)

グッドデザイン大賞 [α-Tubeモニター] 松下電器産業株式会社

●第2回国際デザインコンペ、アンジェラ・クヌープ「メモリー付婦人体温計」にグランプリ

毎日国際IDコンペ発表

ICSIDワシントン会議「WORLD DESIGN '85」開催

ポライアハウス・プロジェクト「NATIONAL Characteristics in Design」展開催(ロンドン)

京都国立近代美術館「現代デザインの展望—ポストモダンの地平から」展開催

「FP」「PORTFOLIO」発刊

「つかしん」オープン(尼崎市) JDN「デザイナー情報カード」開始

●貿易摩擦

ニューメディア

ファミコンブーム

パフォーマンス

## 昭和61年

●第24回日本グッドデザイン展開催 (Gマーク30周年記念展) 東京

グッドデザイン商品選定制度創設30年、申請総点数62,599点、選定総点数12,392点

Gマーク30周年記念・シンポジウム(ラフォーレ・ミュージアム飯倉)

Gマークバイヤーズカタログ発刊開始

グッドデザイン大賞 [Trygonシリーズ] 株式会社稲葉製作所

●東ドイツ「日本のインダストリアル・デザイン展」開催(ベルリン)

フランス・ボンビッドセンター「前衛芸術の日本」展開催(パリ)

「icon」「スペースインテリア」「エルゴデザイン」発刊

デザイン・ダイレクター相次ぎ出版

●円高

財テク

行列ブーム

「メンズ・ノンノ」など男性ファッション誌相次ぎ創刊

CD普及へ

新人類

40



東京会場



金沢会場



小型乗用車 シビック3ドアハッチバック 25i/本田技研工業(株)



大阪会場



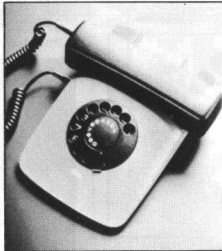
東京会場



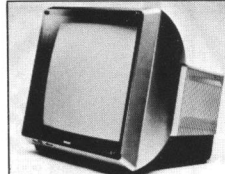
ビデオ City Jack GZ-SR-HR-CS-TM-P3/日本ビクター(株)



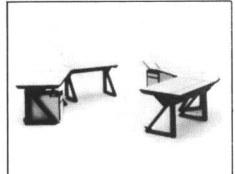
カメラ オートマン T50/キヤノン(株)



電話機 ETA8234 K023 /Iskra Commerce



ビデオモニター α-Tube monitor /松下電器産業(株)



平机・移動式キャビネット Trygon/ (株)稲葉製作所



チューナ ST-S90・プリアンプ SY-A90・パワーアンプ SC-A90F/ 東京芝浦電気(株)



テープレイヤー スポーツウォークマン FM WM-F5/ソニー(株)



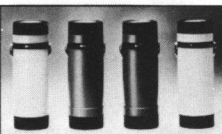
ダンベル ヘビィハンズ866 /AMF Tyrolia-Freizeitgerate-Ges. mbH & Co.



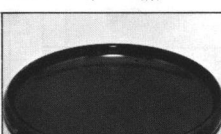
卓上スタンド Z-555/山田照明(株)



シューラ 弓型シューラ-コシ84/日都産業(株)



魔法びん KNE-750/ 象印マホービン(株)



朱塗盛鉢/(株)紅房



野球用クラブ ワールドウィン2GG-1010/美津濃(株)



普通乗用車 MERCEDES-BENZ 300E/ Daimler-Benz AG



## 日本グッドデザイン展24年の歩み

---

編集・発行：日本グッドデザイン展協議会 〒105 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル別館4F

印刷：(株)日貿タイプライター商会

(昭和62年7月)

